



ディスカバリ イベントの操作

以下のトピックでは、ディスカバリ イベントを操作する方法について説明します。

- [検出イベントの検出データとアイデンティティ データ, 1 ページ](#)
- [ディスカバリ イベントの統計情報の表示, 2 ページ](#)
- [ディスカバリ パフォーマンス グラフの表示, 6 ページ](#)
- [ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, 7 ページ](#)

検出イベントの検出データとアイデンティティ データ

システムは、モニタ対象のネットワークで検出された変更を表すイベントのテーブルを生成します。このテーブルを使用して、ネットワークのユーザ アクティビティを確認し、応答方法を決定できます。ネットワーク検出およびアイデンティティ ポリシーは、収集するデータ、モニタするネットワークセグメント、およびそのために使用する特定のハードウェアインターフェイスの種類を指定します。

検出およびアイデンティティ イベントテーブルを使用して、ネットワークのホスト、アプリケーション、およびユーザに関連付けられている脅威を特定できます。システムには事前定義のワークフローセットが用意されており、これを使用して、システムで生成されるイベントを分析することができます。また、特定のニーズに合った情報のみを表示するカスタムワークフローを作成することもできます。

分析用にネットワーク検出およびアイデンティティ データを収集し、保存するには、ネットワーク検出およびアイデンティティ ポリシーを設定する必要があります。アイデンティティ ポリシーを設定した後、アクセスコントロールポリシーで呼び出して、トラフィックのモニタに使用するデバイスに展開する必要があります。

ネットワーク検出ポリシーは、ホスト、アプリケーション、および権限のないユーザ データを提供します。アイデンティティ ポリシーは、権限のあるユーザ データを提供します。

次の検出イベントテーブルは、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)]、[分析 (Analysis)] > [ユーザ (Users)]、および [分析 (Analysis)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] メニューにあります。

検出イベント テーブル	検出データが入力されますか。	アイデンティティ データが入力されますか。
ホスト (Hosts)	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
の侵害の兆候	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
アプリケーション	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
アプリケーション詳細 (Application Details)	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
サーバ	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
ホスト属性 (Host Attributes)	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
検出イベント (Discovery Events)	○	○
ユーザ アクティビティ (User Activity)	○	○
Users	○	○
脆弱性 (Vulnerabilities)	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
サードパーティの脆弱性 (Third-Party Vulnerabilities)	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]

ディスカバリ イベントの統計情報の表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

[ディスカバリ統計情報 (Discovery Statistics)] ページには、システムで検出されたホスト、イベント、プロトコル、アプリケーションプロトコル、オペレーティングシステムの概要が表示されます。

ページには、最後の 1 時間の統計情報、および累計の統計情報が示されます。特定のデバイス、またはすべてのデバイスについての統計情報を表示することができます。サマリに示されているイベント、サーバ、オペレーティングシステム、またはオペレーティングシステムのベンダーをクリックして、ページ上のエントリに一致するイベントを表示することもできます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

手順

-
- ステップ 1** [概要 (Overview)]>[概要 (Summary)]>[検出統計 (Discovery Statistics)]を選択します。
- ステップ 2** [デバイスの選択 (Select Device)]リストから、統計情報を表示するデバイスを選択します。オプションで、Firepower Management Center で管理されるすべてのデバイスの統計情報を表示するには、[すべて (All)]を選択します。
- ステップ 3** 次の選択肢があります。
- [【統計情報サマリ \(Statistics Summary\)】セクション, \(3 ページ\)](#) で説明されているように、[【統計サマリー \(Statistics Summary\)】](#) に一般的な統計情報を表示します。
 - [【イベントの中断 \(Event Breakdown\)】](#) で、表示するイベントタイプをクリックします。イベントが 1 つも表示されない場合は、[時間枠の変更](#) で説明されているように、時間範囲を調整する必要があるかもしれません。
 - [【プロトコルの中断 \(Protocol Breakdown\)】](#) で、検出されたホストによって現在使用されているプロトコルを表示します。
 - [【アプリケーションプロトコルの中断 \(Application Protocol Breakdown\)】](#) で、表示するアプリケーションプロトコルの名前をクリックします。
 - [【OS の中断 \(OS Breakdown\)】](#) で、[【OS 名 \(OS Name\)】](#) または [【OS ベンダー \(OS Vendor\)】](#) をクリックします。
-

関連トピック

- [【イベント分類 \(Event Breakdown\)】セクション, \(5 ページ\)](#)
- [【プロトコル分類 \(Protocol Breakdown\)】セクション, \(5 ページ\)](#)
- [【アプリケーションプロトコル分類 \(Application Protocol Breakdown\)】セクション, \(5 ページ\)](#)
- [【OS 分類 \(OS Breakdown\)】セクション, \(5 ページ\)](#)

【統計情報サマリ (Statistics Summary)】セクション

[統計情報サマリ (Statistics Summary)]セクションの行の説明は次のとおりです。

合計イベント数 (Total Events)

Firepower Management Center に格納されているディスカバリ イベントの合計数。

過去 1 時間のイベントの合計 (Total Events Last Hour)

最後の 1 時間に生成されたディスカバリ イベントの合計数。

過去 1 日のイベントの合計 (Total Events Last Day)

最後の 1 日に生成されたディスカバリ イベントの合計数。

アプリケーションプロトコル合計数 (Total Application Protocols)

検出されたホストで実行されているサーバのアプリケーションプロトコルの合計数。

IP ホストの合計 (Total IP Hosts)

一意の IP アドレスによって特定された検出済みホストの合計数。

MAC ホストの合計 (Total MAC Hosts)

IP アドレスで特定されない検出済みホストの合計数。

すべてのデバイス、または特定のデバイスのどちらについてのディスカバリ統計情報を参照している場合でも、[MAC ホストの合計 (Total MAC Hosts)] の統計情報は同じになることに注意してください。これは、管理対象デバイスが IP アドレスに基づいてホストを検出するためです。この統計情報は、他の方法によって識別され、特定の管理対象デバイスに依存しないすべてのホストの合計を表します。

ルータの合計 (Total Routers)

ルータとして識別された検出ノードの合計数。

ブリッジの合計 (Total Bridges)

ブリッジとして識別された検出ノードの合計数。

ホスト制限の使用 (Host Limit Usage)

使用中のホスト制限のパーセンテージ合計。ホストの制限は、Firepower Management Center のモデルによって定義されます。すべての管理対象デバイスについての統計情報を表示している場合は、ホストの使用制限のみが表示されることに注意してください。



(注) ホストの制限に達してホストが削除されると、ディスカバリ データを消去するネットワークマップ上にホストは表示されなくなります。

最後に受け取ったイベント (Last Event Received)

最後のディスカバリ イベントが行われた日付と時間。

最後に受信した接続 (Last Connection Received)

最後の接続が完了した日付と時間。

[イベント分類 (Event Breakdown)] セクション

[イベント分類 (Event Breakdown)] セクションには、データベースに格納されている各イベントタイプの合計数のカウントの他に、ネットワーク検出の各タイプのカウント、および最後の 1 時間で発生したホスト入力イベントが示されます。

[イベント分類 (Event Breakdown)] セクションを使用して、ディスカバリ イベントおよびホスト入力イベントの詳細を表示することもできます。

関連トピック

[検出イベントおよびホスト入力イベント, \(9 ページ\)](#)

[プロトコル分類 (Protocol Breakdown)] セクション

[プロトコル分類 (Protocol Breakdown)] セクションには、検出されたホストで使用されているプロトコルが示されます。このセクションには、検出されたそれぞれのプロトコル名、プロトコルスタックの「レイヤ」、およびプロトコルを使用して通信しているホストの合計数が表示されます。

[アプリケーションプロトコル分類 (Application Protocol Breakdown)] セクション

[アプリケーションプロトコル分類 (Application Protocol Breakdown)] セクションには、検出されたホストで使用されているアプリケーションプロトコルが示されます。このセクションには、プロトコル名、最後の 1 時間にアプリケーションプロトコルを実行したホストの合計数、いずれかのポイントでプロトコルの実行が検出されたホストの合計数が表示されます。

[アプリケーションプロトコル分類 (Application Protocol Breakdown)] セクションではさらに、検出されたプロトコルを使用しているサーバの詳細を表示することもできます。

関連トピック

[サーバデータ, \(35 ページ\)](#)

[OS 分類 (OS Breakdown)] セクション

[OS 分類 (OS Breakdown)] セクションには、監視対象ネットワーク上で稼動しているオペレーティングシステム、およびオペレーティングシステムのベンダー、各オペレーティングシステムを実行しているホストの合計数が示されます。

オペレーティング システムの名前またはバージョンの値が `unknown` の場合は、オペレーティング システムまたはそのバージョンが、システムのフィンガープリントの内容と一致しないことを意味します。値が `pending` の場合は、オペレーティング システムまたはそのバージョンを識別するための十分な情報がシステムで収集されていないことを意味します。

[OS 分類 (OS Breakdown)] セクションを使用して、検出されたオペレーティング システムの詳細を表示することができます。

関連トピック

[ホスト データ](#), (19 ページ)

ディスクバリ パフォーマンス グラフの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Maint

ディスクバリ イベントを使用して、管理対象デバイスのパフォーマンス統計情報を示すグラフを生成することができます。

新しいデータは 5 分ごとに統計グラフに蓄積されます。したがって、グラフをすばやくリロードしても、次の 5 分の差分更新が実行されるまでデータは変更されていない場合があります。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

手順

-
- ステップ 1 [概要 (Overview)] > [概要 (Summary)] > [検出パフォーマンス (Discovery Performance)] を選択します。
 - ステップ 2 [デバイスの選択 (Select Device)] リストから、Firepower Management Center または対象とする管理対象デバイスを選択します。
 - ステップ 3 [ディスクバリ パフォーマンス グラフ タイプ](#), (6 ページ) で説明されているように、[グラフの選択 (Select Graph(s))] リストから、作成するグラフの種類を選択します。
 - ステップ 4 [時間範囲の選択 (Select Time Range)] リストから、グラフに使用する時間範囲を選択します。
 - ステップ 5 [グラフ (Graph)] をクリックして、選択した統計情報をグラフ化します。
-

ディスクバリ パフォーマンス グラフ タイプ

次に、使用できるグラフのタイプについて説明します。

処理されたイベント数/秒

Data Correlator が 1 秒間に処理するイベントの数を表します。

処理された接続数/秒

Data Correlator が 1 秒間に処理する接続の数を表します。

生成されたイベント数/秒

システムが 1 秒間に生成するイベントの数を表します。

メガビット/秒

ディスカバリ プロセスによって 1 秒間に分析されたトラフィック数 (メガビット) を表します。

平均バイト/パケット

ディスカバリ プロセスによって分析された各パケットに含まれるバイト数の平均を表します。

キロパケット/秒

ディスカバリ プロセスで 1 秒間に分析されるパケット数を 1000 単位で表します。

ディスカバリおよびアイデンティティワークフローの使用

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	タスクに依存

Firepower Management Center は、ネットワークで生成されるディスカバリおよびアイデンティティデータの分析で使用できるイベントワークフローセットを提供します。ワークフローはネットワークマップとともに、ネットワーク資産に関する主要な情報源になります。

Firepower Management Center には、ディスカバリおよびアイデンティティデータ、検出されたホストとそのホストの属性、サーバ、アプリケーション、アプリケーションの詳細、脆弱性、ユーザアクティビティ、ユーザに関する事前定義されたワークフローが用意されています。ユーザはカスタムワークフローを作成することもできます。

手順

- ステップ 1** 事前定義されたワークフローにアクセスするには、以下を実行します。

- ディスカバリとホスト入力データ：ディスカバリ イベントとホスト入力イベントの表示、（[17 ページ](#)）を参照してください。
- ホスト データ：ホスト データの表示、（[19 ページ](#)）を参照してください。
- ホスト属性データ：ホスト属性の表示、（[27 ページ](#)）を参照してください。
- ホストまたはユーザの侵害の兆候データ：侵害の兆候データの表示、（[31 ページ](#)）を参照してください。
- サーバデータ：サーバデータの表示、（[35 ページ](#)）を参照してください。
- アプリケーションデータ：アプリケーションデータの表示、（[39 ページ](#)）を参照してください。
- アプリケーション詳細データ：アプリケーション詳細データの表示、（[42 ページ](#)）を参照してください。
- ユーザ データ：ユーザデータの表示、（[61 ページ](#)）を参照してください。
- ユーザ アクティビティ データ：ユーザ アクティビティ データの表示、（[64 ページ](#)）を参照してください。
- ネットワーク マップ：ネットワーク マップの表示を参照してください。

- ステップ 2** カスタムワークフローにアクセスするには、[分析 (Analysis)] > [カスタム (Custom)] > [カスタムワークフロー (Custom Workflows)] を選択します。
- ステップ 3** カスタムテーブルに基づいたワークフローにアクセスするには、[分析 (Analysis)] > [カスタム (Custom)] > [カスタムテーブル (Custom Tables)] を選択します。
- ステップ 4** 以下のいずれかのアクションを実行します。これらは、ネットワーク検出ワークフローでアクセスするすべてのページに共通です。




- カラムの制約：表示されるカラムを制約にするには、非表示にするカラムの見出しにある閉じるアイコン (✖) をクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、[適用 (Apply)] をクリックします。

ヒント 他のカラムを表示または非表示にするには、[適用 (Apply)] をクリックする前に、該当するチェックボックスをオンまたはオフにします。無効にしたカラムをビューに戻すには、展開の矢印をクリックして検索制約を展開し、[無効にされたカラム (Disabled Columns)] の下のカラム名をクリックします。

- 削除：現在の制約されたビューにある一部またはすべての項目を削除するには、削除する項目の横にあるチェックボックスをオンにし、[削除 (Delete)] または [すべて削除 (Delete All)] をクリックします。これらのアイテムが再検出されても、システムのディスカバリ機能が再開されるまで、これらのアイテムは削除されたままになります。

注意 [分析 (Analysis)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザ (Users)] ページでセッションを削除する前に、セッションが実際に閉じられていることを確認します。アクティブなセッションを削除すると、該当するポリシーはデバイス上のセッションを検出できなくなります。そのため、モニタしたり、ブロックしたりするようポリシーが設定されていたとしても、セッションはそれらのアクションを実行しません。

(注) サードパーティの場合とは異なり、シスコの脆弱性は削除できません。ただし、確認済みとしてマークすることはできます。

- ドリルダウン：ワークフローの次のページにドリルダウンするには、[ドリルダウンページの使用](#)を参照してください。
- 現在のページを移動する：現在のワークフローページ内を移動するには、[ワークフローページのナビゲーションツール](#)を参照してください。
- ワークフロー内で移動する：現在の制約を維持しながら現在のワークフローのページ間で移動するには、ワークフローページの左上にある該当するページリンクをクリックします。
- 他のワークフローに移動する：関連するイベントを調べるために、その他のイベントビューに移動するには、[ワークフロー間のナビゲーション](#)を参照してください。
- データのソート：ワークフローでデータをソートするには、カラムのタイトルをクリックします。ソート順を逆にするには、カラムのタイトルをもう一度クリックします。
- ホストプロファイルの表示：IPアドレスのホストプロファイルを表示するには、ホストプロファイルのアイコン () をクリックします。アクティブな侵害の兆候 (IOC) タグのあるホストの場合は、IPアドレスの横に表示される侵害されたホストのアイコン () をクリックします。
- ユーザプロファイル：ユーザ ID 情報を表示するには、ユーザ ID の横に表示されるユーザアイコン () をクリックします。 の表示

関連トピック

[ワークフローの使用](#)

[Management Center データベースからのデータの消去](#)

検出イベントおよびホスト入カイベント

システムは検出イベントを生成します。このイベントは、監視対象ネットワークセグメントにおける変更の詳細をやり取りします。新しく検出されたネットワーク機能に対しては、新しいイベントが生成され、以前に認識されたネットワークアセットにおける何らかの変更に対しては、変更のイベントが生成されます。

最初のネットワーク検出のフェーズ中に、システムは各ホスト、および各ホスト上での稼動が検出された TCP または UDP サーバについて、新しいイベントを生成します。必要に応じて、エクスポートされた NetFlow レコードを使用してこれらの新しいホストおよびサーバのイベントを生成するよう、システムを設定することができます。

またシステムは、検出された各ホスト上で稼動しているネットワーク、トランスポート、およびアプリケーションプロトコルのそれぞれに対して新しいイベントを生成します。設定されている検出ルールでアプリケーションプロトコルの検出を無効にして、NetFlow エクスポートをモニタ

できますが、Firepower システムの管理対象デバイスをモニタするよう設定された検出ルールではできません。NetFlow 以外の検出ルールでホストまたはユーザの検出を有効にすると、アプリケーションが自動的に検出されます。

最初のネットワーク マッピングが完了すると、続けてシステムは変更イベントを生成し、ネットワークの変更を記録します。変更イベントは、以前に検出されたアセットの設定が変更されるたびに生成されます。

検出イベントが生成されると、データベースに記録されます。Firepower Management Center の Web インターフェイスを使用して、検出イベントを表示、検索、および削除できます。また、関連ルールで検出イベントを使用することもできます。ユーザが指定する他の基準だけでなく、生成される検出イベントのタイプに基づいて、関連ルールを作成することができます。関連ルールは関連ポリシーで使用され、ネットワークトラフィックが基準を満たしたときに、修復、syslog、SNMP、および電子メールアラートの応答を起動します。

ホスト入力機能を使用して、ネットワーク マップにデータを追加することができます。オペレーティング システムの情報を追加、修正、または削除することができますが、この場合、システムは対象のホストに対する情報の更新を停止します。アプリケーションプロトコル、クライアント、サーバ、およびホストの属性を手動で追加、変更、または削除することも、脆弱性の情報を変更することもできます。この処理を行う場合、システムはホスト入力機能を生成します。

ディスカバリ イベント タイプ

ネットワーク検出ポリシーにシステムが記録するディスカバリ イベントのタイプを設定できます。ディスカバリ イベントのテーブルを表示すると、[イベント (Event)] カラムにイベントタイプが表示されます。次に、ディスカバリ イベントタイプについて説明します。

ホストの追加 MAC の検出

このイベントは、以前に検出したホストに対してシステムが新しい MAC アドレスを検出したときに生成されます。

このイベントは多くの場合、ルータを通じてトラフィックを渡すホストをシステムが検出したときに生成されます。各ホストにはそれぞれ異なる IP アドレスがありますが、これらの IP アドレスはすべて、ルータに関連付けられている MAC アドレスを持っているように見えます。システムは IP アドレスに関連付けられている実際の MAC アドレスを検出すると、ホストプロファイル内でその MAC アドレスを太字で表示し、イベントビューのイベント説明に「ARP/DHCP detected」のメッセージを表示します。

クライアント タイムアウト

このイベントは、非アクティブであるという理由で、システムがデータベースからクライアントをドロップしたときに生成されます。

クライアント更新

このイベントは、HTTP トラフィック内でシステムがペイロード（つまり音声やビデオ、Web メールなどの特別なタイプのコンテンツ）を検出したときに生成されます。

DHCP : IP アドレスの変更

このイベントは、DHCP アドレスの割り当てによってホスト IP アドレスが変わったことがシステムで検出された場合に生成されます。

DHCP : IP アドレスの再割り当て

このイベントは、ホストが IP アドレスを再利用するとき、つまり他の物理ホストが以前に使用した IP アドレスを、別のホストが DHCP の IP アドレス割り当てによって取得した場合に生成されます。

ホップ数の変更

このイベントは、ホストと、そのホストを検出するデバイス間でシステムがネットワーク ホップ数の変更を検出した場合に生成されます。これは次のような場合に発生します。

- デバイスがさまざまなルータを介してホストのトラフィックを監視しており、ホストの場所についてより適切な決定ができる場合。
- デバイスがホストから ARP 送信を検出し、ホストがローカル セグメント上にあることを示している場合。

ホスト削除 : ホスト制限に到達

このイベントは、Firepower Management Center 上でホストの制限を超えて、のネットワーク マップから監視対象のホストが削除されたときに生成されます。

ホスト ドロップ : ホスト制限に到達

このイベントは、Firepower Management Center 上でホストの制限に達して新しいホストがドロップされたときに生成されます。このイベントとの相違点として、前述のイベントでは、ホストの制限に達したときに古いホストがネットワーク マップから削除されます。

ホストの制限に達したときに新しいホストをドロップするには、[ポリシー (Policies)] > [ネットワーク検出 (Network Discovery)] > [詳細 (Advanced)] を選択し、[ホストの制限に達した場合 (When Host Limit Reached)] を [ホストをドロップ (Drop hosts)] に設定します。

ホストの IOC セット

このイベントは、ホストに対して IOC (侵害の痕跡) が設定され、アラートが生成されたときに生成されます。

ホスト タイムアウト

このイベントは、ネットワーク検出ポリシーで定義された間隔内でホストがトラフィックを生成しなかったために、ネットワーク マップからホストがドロップされたときに生成されます。個々のホストの IP アドレスと MAC アドレスはそれぞれタイムアウトになることに注意してください。関連付けられているアドレスがすべてタイムアウトになるまで、ホストはネットワーク マップから消えません。

ネットワーク検出ポリシーで監視するネットワークを変更する場合は、ネットワーク マップから古いホストを手動で削除して、それらのホストがホストの制限に不利に作用しないようにします。

ネットワーク デバイスへのホストタイプの変更

このイベントは、システムが、検出されたホストが実際はネットワーク デバイスであったことを認識したときに生成されます。

アイデンティティ競合

このイベントは、システムが、新しいサーバまたはオペレーティング システムに対する現行のアクティブなアイデンティティと競合する、そのサーバまたはオペレーティング システムのアイデンティティを検出したときに生成されます。

より新しいアクティブなアイデンティティ データを取得するためにホストを再スキャンして、アイデンティティの競合を解決する場合は、Identity Conflict イベントを使用して Nmap の修復をトリガーできます。

アイデンティティ タイムアウト

このイベントは、アクティブなソースからのサーバまたはオペレーティング システムの ID データがタイムアウトしたときに生成されます。

より新しいアクティブなアイデンティティ データを取得するために、ホストを再スキャンしてアイデンティティ データをリフレッシュする場合は、Identity Conflict イベントを使用して Nmap の修復をトリガーできます。

MAC 情報の変更

このイベントは、特定の MAC アドレスまたは TTL 値に関連付けられている情報で、システムが変更を検出したときに生成されます。

このイベントは多くの場合、ルータを通じてトラフィックを渡すホストをシステムが検出したときに発生します。各ホストにはそれぞれ異なる IP アドレスがありますが、これらの IP アドレスはすべて、ルータに関連付けられている MAC アドレスを持っているように見えます。システムは IP アドレスに関連付けられている実際の MAC アドレスを検出すると、ホストプロファイル内でその MAC アドレスを太字で表示し、イベント ビューのイベント説明に「ARP/DHCP detected」のメッセージを表示します。TTLは変わる可能性があります、これはトラフィックが複数のルータを通じて渡される可能性があるためです。また、システムがホストの実際の MAC アドレスを検出した場合も TTL が変わる可能性があります。

NETBIOS 名の変更

このイベントは、システムがホストの NetBIOS 名に対する変更を検出したときに生成されます。このイベントは、NetBIOS プロトコルを使用するホストに対してのみ生成されます。

新しいクライアント

このイベントは、システムが新しいクライアントを検出したときに生成されます。



(注) 分析用にクライアントデータを収集および格納するには、ネットワーク検出ポリシーのディスカバリルールでアプリケーションの検出が有効になっていることを確認します。

新しいホスト

このイベントは、システムがネットワーク上で稼動している新しいホストを検出したときに生成されます。

このイベントは、デバイスが新しいホストを含むNetFlowデータを処理するときも生成できます。この状況でイベントを生成するには、NetFlowデータを管理するネットワーク検出ルールでホストを検出するように設定します。

新しいネットワーク プロトコル

このイベントは、ホストが新しいネットワークプロトコル（IP、ARPなど）と通信していることをシステムが検出したときに生成されます。

新しい OS

このイベントは、システムがホストの新しいオペレーティングシステムを検出した、またはホストのオペレーティングシステムで変更を検出したときに生成されます。

新しい TCP ポート

このイベントは、ホスト上でアクティブな新しいTCPサーバポート（SMTPまたはWebサービスで使用されているポートなど）をシステムが検出したときに生成されます。このイベントは、アプリケーションプロトコル、またはアプリケーションプロトコルに関連付けられているサーバの識別には使用されません。情報は、TCP Server Information Update イベントで伝送されます。

このイベントは、デバイスがネットワークマップにすでに存在しないモニタ対象ネットワーク上のサーバを含むNetFlowデータを処理するときも生成できます。この状況でイベントを生成するには、NetFlowデータを管理するネットワーク検出ルールでアプリケーションを検出するように設定します。

新しいトランスポート プロトコル

このイベントは、ホストが新しいトランスポートプロトコル（TCP、UDPなど）と通信していることをシステムが検出したときに生成されます。

新しい UDP ポート

このイベントは、システムが、ホスト上で稼動している新しいUDPサーバポートを検出したときに生成されます。

このイベントは、デバイスがネットワークマップにすでに存在しないモニタ対象ネットワーク上のサーバを含むNetFlowデータを処理するときも生成できます。この状況でイベントを生成するには、NetFlowデータを管理するネットワーク検出ルールでアプリケーションを検出するように設定します。

TCP ポート クローズ

このイベントは、システムが、ホスト上でTCPポートがクローズしたことを検出したときに生成されます。

TCP ポート タイムアウト

このイベントは、システムのネットワーク検出ポリシーに定義された間隔内で、システムがTCPポートからアクティビティを検出しなかったときに生成されます。

TCP サーバ情報の更新

このイベントは、ホスト上で稼動しており、すでに検出されているTCPサーバでシステムが変更を検出したときに生成されます。

このイベントは、TCPサーバが更新されたときに生成される場合があります。

UDP ポート クローズ

このイベントは、システムが、ホスト上でUDPポートがクローズしたことを検出したときに生成されます。

UDP ポート タイムアウト

このイベントは、ネットワーク検出ポリシーに定義された間隔内で、システムがUDPポートからアクティビティを検出しなかったときに生成されます。

UDP サーバ情報の更新

このイベントは、ホスト上で稼動しており、すでに検出されているUDPサーバでシステムが変更を検出したときに生成されます。

このイベントは、UDPサーバが更新されたときに生成される場合があります。

VLAN タグ情報の更新

このイベントは、システムが、VLANタグ内でホストに起因する変更を検出したときに生成されます。

関連トピック

[ホスト入力イベントタイプ](#)、(14ページ)

[ネットワーク検出のデータストレージ設定](#)

[アプリケーションおよびオペレーティングシステムのIDの競合](#)

[ネットワーク検出アイデンティティ競合の設定](#)

ホスト入力イベントタイプ

ディスカバリ イベントのテーブルを表示すると、[イベント (Event)] カラムにイベントタイプが表示されます。

ユーザが（手動でホストを追加するなどの）特定のアクションを実行したときに生成されるホスト入カイベントとは異なり、ディスカバリイベントは、システムが、監視対象ネットワークで変更を検出したとき（以前は検出されなかったホストでトラフィックを検出した場合など）に生成されます。

ネットワーク検出ポリシーを変更して、システムが記録するホスト入カイベントのタイプを設定できます。

さまざまなタイプのホスト入カイベントが提示する情報を理解すると、どのイベントを記録およびアラートの対象にするか、関連ポリシーでこれらのアラートをどのように使用するかを効率よく判断できるようになります。また、イベントタイプの名前がわかると、より効率のよいイベント検索を作成するうえで役に立ちます。次に、ホスト入カイベントのさまざまなタイプについて説明します。

クライアントの追加 (Add Client)

このイベントは、ユーザがクライアントを追加したときに生成されます。

ホストの追加 (Add Host)

このイベントは、ユーザがホストを追加したときに生成されます。

プロトコルの追加 (Add Protocol)

このイベントは、ユーザがプロトコルを追加したときに生成されます。

スキャン結果の追加 (Add Scan Result)

このイベントは、システムが Nmap スキャンの結果をホストに追加したときに生成されます。

ポートの追加 (Add Port)

このイベントは、ユーザがサーバポートを追加したときに生成されます。

クライアントの削除 (Delete Client)

このイベントは、ユーザがシステムからクライアントを削除したときに生成されます。

ホスト/ネットワークの削除 (Delete Host/Network)

このイベントは、ユーザがシステムから IP アドレスまたはサブネットを削除したときに生成されます。

プロトコルの削除 (Delete Protocol)

このイベントは、ユーザがシステムからプロトコルを削除したときに生成されます。

ポートの削除 (Delete Port)

このイベントは、ユーザがシステムからサーバポートまたはサーバポートのグループを削除したときに生成されます。

ホスト属性の追加 (Host Attribute Add)

このイベントは、ユーザが新しいホスト属性を作成したときに生成されます。

ホスト属性の削除 (Host Attribute Delete)

このイベントは、ユーザが、ユーザ定義のホスト属性を削除したときに生成されます。

ホスト属性値の削除 (Host Attribute Delete Value)

このイベントは、ユーザが、ホスト属性に割り当てられている値を削除したときに生成されます。

ホスト属性値の設定 (Host Attribute Set Value)

このイベントは、ユーザがホストに対してホスト属性値を設定したときに生成されます。

ホスト属性の更新 (Host Attribute Update)

このイベントは、ユーザが、ユーザ定義のホスト属性の定義を変更したときに生成されます。

ホスト重要度の設定 (Set Host Criticality)

このイベントは、ユーザがホストに対してホストの重要度の値を設定した、または変更したときに生成されます。

オペレーティングシステム定義の設定 (Set Operating System Definition)

このイベントは、ユーザがホストに対してオペレーティングシステムを設定したときに生成されます。

サーバ定義の設定 (Set Server Definition)

このイベントは、ユーザがサーバに対してベンダーおよびバージョンの定義を設定したときに生成されます。

脆弱性影響認定の設定 (Set Vulnerability Impact Qualification)

このイベントは、脆弱性の影響の認定が設定されたときに生成されます。

脆弱性が、影響の認定に対する使用でグローバルレベルで無効になったとき、または脆弱性がグローバルレベルで有効になったときに、このイベントが生成されます。

脆弱性を無効に設定 (Vulnerability Set Invalid)

このイベントは、ユーザが1つ以上の脆弱性を無効にした（または確認した）ときに生成されます。

脆弱性を有効に設定 (Vulnerability Set Valid)

このイベントは、ユーザが、以前に無効であるとマークされた脆弱性を有効にしたときに生成されます。

関連トピック

[ディスカバリ イベント タイプ, \(10 ページ\)](#)

ディスカバリ イベントとホスト入カイベントの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

ディスカバリ イベント ワークフローでは、ディスカバリ イベントとホスト入カイベント両方からのデータを表示できます。ユーザは検索する情報に応じてイベント ビューを操作することができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザがイベントにアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。ユーザは事前定義のワークフローを使用できますが、これにはディスカバリ イベントのテーブルビューと、ホストビューの最終ページが含まれています。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

手順

ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [検出イベント (Discovery Events)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [時間枠の変更](#)の説明に従って、時間範囲を調整します。
 (注) イベント ビューを時間によって制約している場合は、(グローバルかイベント固有かに関係なく) アプライアンスに設定されている時間枠の外で生成されたイベントが、イベント ビューに表示されます。アプライアンスに対してスライドする時間枠を設定した場合でも、この状況が発生することがあります。
- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタム ワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します ([ディスカバリ およびアイデンティティ ワークフローの使用, \(7 ページ\)](#) を参照)。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます ([ディスカバリ イベントのフィールド, \(18 ページ\)](#) を参照)。

関連トピック

[ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, \(7 ページ\)](#)

ディスカバリ イベントのフィールド

以下に、ディスカバリ イベント テーブルで表示および検索できるフィールドについて説明します。

時刻 (Time)

システムがイベントを生成した時間。

イベント

ディスカバリ イベント タイプまたはホスト入力イベント タイプ。

[IPアドレス (IP Address)]

イベントに関連するホストに関連付けられている IP アドレス。

ユーザ (User)

イベントが生成される前に、イベントに関係するホストに最後にログインしたユーザ。権限のあるユーザの後に、権限のないユーザのみがログインした場合、権限のある別のユーザが次にログインするまで、権限のあるユーザがそのホストの現行ユーザとして保持されます。

MAC アドレス (MAC Address)

ディスカバリ イベントをトリガーとして使用したネットワーク トラフィックが使用する NIC の MAC アドレス。この MAC アドレスは、イベントに関連するホストの実際の MAC アドレスであるか、またはトラフィックが通過したネットワーク デバイスの MAC アドレスになります。

MAC ベンダー (MAC Vendor)

ディスカバリ イベントをトリガーとして使用したネットワーク トラフィックが使用する NIC の MAC ハードウェア ベンダー。

このフィールドを検索する場合は、`virtual_mac_vendor`を入力して、仮想ホストに関係するイベントを照合します。

[ポート (Port)]

イベントをトリガーとして使用したトラフィックが使用するポート (該当する場合)。

説明

テキストによるイベントの説明。

ドメイン

ホストを検出したデバイスのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

Device

イベントを生成した管理対象デバイスの名前。NetFlow データに基づいた新しいホストおよび新しいサーバのイベントの場合、これはそのデータを処理した管理対象デバイスになります。

関連トピック

[イベントの検索](#)

ホスト データ

システムがホストを検出し、ホストプロファイルを作成するためにホストに関する情報を収集したときに、イベントが生成されます。Firepower Management Center Web インターフェイスを使用して、ホストを表示、検索、および削除できます。

ホストの表示中に、選択したホストに基づいてトラフィックのプロファイル、およびコンプライアンスのホワイトリストを作成できます。また、（ビジネスの重要度を設定する）ホストの重要度の値などのホスト属性をホストグループに割り当てることもできます。そのあとで、相関ルールおよびポリシーの中でこれらの重要度の値、ホワイトリスト、およびトラフィックプロファイルを使用できます。

システムは、ホストをエクスポートされた NetFlow レコードからネットワーク マップに追加できますが、これらのホストに使用できる情報は限られます（[NetFlow データと管理対象デバイスデータの違い](#)を参照）。

関連トピック

[NetFlow データと管理対象デバイス データの違い](#)

ホスト データの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Firepower Management Center を使用して、システムが検出したホストのテーブルを表示することができます。その後、探している情報に応じて表示方法を操作できます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザがホストにアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。両方の事前定義ワークフローが、制限を満たすすべてのホストのホストプロファイルを含むホストビューで終わります。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタムワークフローを作成することもできます。

手順

ステップ 1 次のように、ホスト データにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [ホスト (Hosts)] を選択します。
- ホストのテーブルビューが含まれないカスタムワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして [ホスト (Hosts)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタムワークフローを含む別のワークフローを使用します。
 - 基本的なワークフロー操作を実行します (ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, (7 ページ) を参照)。
 - テーブルのカラムの内容について詳しく調べます (ホスト データ フィールド, (20 ページ) を参照)。
 - ホスト属性を特定のホストに割り当てます (選択したホストのホスト属性の設定, (29 ページ) を参照)。
 - 特定のホストのトラフィック プロファイルを作成します (選択したホストのトラフィック プロファイルの作成, (25 ページ) を参照)。
 - 特定のホストに基づいて、コンプライアンスのホワイトリストを作成します (選択したホストに基づいたコンプライアンスのホワイトリストの作成, (26 ページ) を参照)。
-

ホスト データ フィールド

システムはホストを検出したときに、そのホストに関するデータを収集します。そのデータには、ホストの IP アドレス、ホストが実行しているオペレーティングシステムなどが含まれることが可能です。ユーザは、ホストのテーブルビューでこれらの情報の一部を表示することができます。

ホスト テーブルで表示および検索できるフィールドの説明が続きます。

前回の検出 (Last Seen)

システムによっていずれかのホストの IP アドレスが最後に検出された日付と時間。[前回の検出 (Last Seen)] の値は、ホストの IP アドレスに対してシステムが新しいホスト イベントを生成し

たときだけでなく、少なくともユーザがネットワーク検出ポリシーに設定した更新間隔の頻度で更新されます。

ホスト入力機能を使用して、オペレーティングシステムのデータを更新しているホストでは、[前回の検出 (Last Seen)] の値は、そのデータが最初に追加された日付と時間を表します。

[IPアドレス (IP Address)]

ホストに関連付けられている IP アドレス。

MAC アドレス (MAC Address)

ホストが検出した NIC の MAC アドレス。

[MACアドレス (MAC Address)] フィールドは、[ホスト (Hosts)] ワークフローの [ホストのテーブルビュー (Table View of Hosts)] に表示されます。以下のものに対して [MACアドレス (MAC Address)] フィールドを追加できます。

- [ホスト (Hosts)] テーブルのフィールドが含まれているカスタム テーブル
- [ホスト (Hosts)] テーブルに基づいたカスタム ワークフローのドリルダウン ページ

MAC ベンダー (MAC Vendor)

ホストが検出した NIC の MAC ハードウェア ベンダー。

[MACベンダー (MAC Vendor)] フィールドは、[ホスト (Hosts)] ワークフローの [ホストのテーブルビュー (Table View of Hosts)] に表示されます。以下のものに対して [MACベンダー (MAC Vendor)] フィールドを追加できます。

- [ホスト (Hosts)] テーブルのフィールドが含まれているカスタム テーブル
- [ホスト (Hosts)] テーブルに基づいたカスタム ワークフローのドリルダウン ページ

このフィールドを検索する場合は、`virtual_mac_vendor` を入力して、仮想ホストに関係するイベントを照合します。

現在のユーザ (Current User)

ホストに現在ログインしているユーザの ID (ユーザ名)。

権限のないユーザがホストにログインすると、そのログインはユーザおよびホストの履歴に記録されることに注意してください。権限のあるユーザがホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行ユーザとなることが可能です。ただし、権限のあるユーザがホストにログインした後は、権限のある別のユーザがログインした場合のみ、現行ユーザが変わります。また、権限のないユーザがホストの現行ユーザである場合、そのユーザを使用してユーザ制御を行うことはできません。

ホストの重要度 (Host Criticality)

ホストに割り当てられている、ユーザ指定の重要度の値。

NetBIOS 名 (NetBIOS Name)

ホストの NetBIOS 名。NetBIOS プロトコルを実行しているホストにのみ、NetBIOS 名があります。

VLAN ID (Admin. VLAN ID)

ホストが使用する VLAN ID。

ホップ (Hops)

ホストを検出したデバイスからホストへのネットワークのホップ数。

ホストタイプ (Host Type)

ホストのタイプ。ホスト、モバイルデバイス、**jailbroken** モバイルデバイス、ルータ、ブリッジ、NAT デバイス、ロードバランサのいずれかにできます。

ネットワーク デバイスを区別するためにシステムでは次の方法を使用します。

- Cisco Discovery Protocol (CDP) メッセージの分析。ネットワークのデバイスおよびそれらのタイプ (シスコ デバイスのみ) を特定できます。
- スパニングツリープロトコル (STP) の検出。デバイスをスイッチまたはブリッジとして識別します。
- 同じ MAC アドレスを使用している複数のホストの検出。MAC アドレスを、ルータに属しているものとして識別します。
- クライアント側からの TTL 値の変更、または通常のブート時間よりも頻繁に変更されている TTL 値の検出。この検出では、NAT デバイスとロードバランサを識別します。

デバイスがネットワーク デバイスとして識別されない場合は、ホストとして分類されます。

このフィールドを検索するときは、!host と入力してすべてのネットワーク デバイスを検索します。

ハードウェア (Hardware)

モバイル デバイスのハードウェア プラットフォーム。

OS

次のいずれかです。

- ホスト上で検出されたオペレーティングシステム (名前、ベンダー、およびバージョン)、または Nmap がホスト入力機能を使用して更新されたオペレーティング システム。
- オペレーティング システムが既知のフィンガープリントに一致しない場合は unknown
- オペレーティング システムを識別するための十分な情報がシステムで収集されていない場合は pending

システムが複数のアイデンティティを検出した場合は、これらのアイデンティティはカンマ区切りリストで表示されます。

このフィールドは、ダッシュボード上で [カスタム分析 (Custom Analysis)] ウィジェットからホストイベントビューを起動したときに表示されます。また、これは [ホスト (Hosts)] テーブルに基づいたカスタムテーブルのフィールドオプションです。

このフィールドを検索するときは、n/a と入力して、オペレーティングシステムがまだ識別されていないホストを含めます。

OS 競合 (OS Conflict)

このフィールドは検索専用です。

OS ベンダー (OS Vendor)

次のいずれかです。

- ホストで検出されたオペレーティングシステムのベンダー、または Nmap かホスト入力機能を使用して更新されたオペレーティングシステムのベンダー。
- オペレーティングシステムが既知のフィンガープリントに一致しない場合は unknown
- オペレーティングシステムを識別するための十分な情報がシステムで収集されていない場合は pending

システムが複数のベンダーを検出した場合は、これらのベンダーはカンマ区切りリストで表示されます。

このフィールドを検索するときは、n/a と入力して、オペレーティングシステムがまだ識別されていないホストを含めます。

OS 名 (OS Name)

次のいずれかです。

- ホスト上で検出されたオペレーティングシステム、または Nmap かホスト入力機能を使用して更新されたオペレーティングシステム。
- オペレーティングシステムが既知のフィンガープリントに一致しない場合は unknown
- オペレーティングシステムを識別するための十分な情報がシステムで収集されていない場合は pending

システムが複数の名前を検出した場合は、これらの名前はカンマ区切りリストで表示されます。

このフィールドを検索するときは、n/a と入力して、オペレーティングシステムがまだ識別されていないホストを含めます。

OS バージョン (OS Version)

次のいずれかです。

- ホストで検出されたオペレーティングシステムのバージョン、または Nmap かホスト入力機能を使用して更新されたオペレーティングシステムのバージョン。

- オペレーティングシステムが既知のフィンガープリントに一致しない場合は `unknown`
- オペレーティングシステムを識別するための十分な情報がシステムで収集されていない場合は `pending`

システムが複数のバージョンを検出した場合は、これらのバージョンはカンマ区切りリストで表示されます。

このフィールドを検索するときは、`n/a` と入力して、オペレーティングシステムがまだ識別されていないホストを含めます。

ソースタイプ (Source Type)

ホストのオペレーティングシステムのアイデンティティを確立するために使用されるソースのタイプは次のとおりです。

- [ユーザ (User)] : `user_name`
- [アプリケーション (Application)] : `app_name`
- スキャナ : `scanner_type` (ネットワーク検出の設定を介して追加された Nmap またはスキャナ)
- システムによって検出されたオペレーティングシステムの場合は `Firepower`

システムでは、オペレーティングシステムのアイデンティティを判断するために、複数のソースのデータを統合することができます。

信頼性 (Confidence)

次のいずれかです。

- システムで検出されたホストについて、ホスト上で稼動しているオペレーティングシステムのアイデンティティ内にシステムが保持している信頼度 (パーセンテージ)。
- 100% (ホスト入力機能や Nmap スキャナなどのアクティブなソースによって識別されたオペレーティングシステムの場合)。
- `unknown` (システムがオペレーティングシステムのアイデンティティを特定できないホスト、および NetFlow データに基づいてネットワーク マップに追加されたホストの場合)。

このフィールドを検索するときは、`n/a` と入力して、NetFlow データに基づいてネットワーク マップに追加されたホストを含めます。

注記 (Notes)

[注記 (Notes)] ホスト属性の、ユーザ定義のコンテンツ。

ドメイン

ホストに関連付けられているドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

Device

トラフィックを検出した管理対象デバイスか、NetFlow またはホスト入力データを処理したデバイスのいずれか。

このフィールドが空白の場合は、次のいずれかの条件を満たします。

- ホストがデバイスによってネットワーク マップに追加されたが、このデバイスは、ホストが存在しているネットワークに対してネットワーク検出ポリシーに定義されているとおりに明示的に監視していない。
- ホストの入力機能を使用してホストが追加されたが、システムによって検出されていない。

メンバー数 (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。このフィールドが表示されるのは、2 つ以上の同一の行を作成する制限を適用した後のみです。

関連トピック

[イベントの検索](#)

[オペレーティング システムのアイデンティティの競合](#)

選択したホストのトラフィック プロファイルの作成

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin

トラフィック プロファイルは、指定した期間に収集された接続データに基づいた、ネットワーク上のトラフィックのプロファイルです。トラフィック プロファイルを作成した後、正常なネットワークトラフィックを表すと想定されるプロファイルに照らして新しいトラフィックを評価することにより、異常なネットワークトラフィックを検出できます。

[ホスト (Hosts)] ページを使用して、指定するホストグループのトラフィック プロファイルを作成できます。トラフィック プロファイルは、指定したホストのいずれかが発信元ホストである、検出された接続に基づいています。ソートおよび検索機能を使用して、プロファイルを作成するホストを分離することができます。

手順

-
- ステップ 1** ホストワークフローのテーブルビューで、トラフィック プロファイルを作成するホストの隣にあるチェック ボックスをオンにします。
 - ステップ 2** ページの下部で [トラフィック プロファイルの作成 (Create Traffic Profile)] をクリックします。
 - ステップ 3** 特別なニーズに応じて、トラフィック プロファイルを変更し、保存します。
-

関連トピック

[トラフィック プロファイルの概要](#)

選択したホストに基づいたコンプライアンスのホワイト リストの作成

スマートライセン ス	従来のライセンス	サポートされるデ バイス	サポートされるド メイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin

コンプライアンスのホワイトリストでは、ネットワーク上で許可されるオペレーティングシステム、クライアント、ネットワーク、トランスポート、またはアプリケーションプロトコルを指定することができます。

[ホスト (Hosts)] ページを使用して、ユーザが指定するホストグループのホストプロファイルに基づいて、コンプライアンスのホワイトリストを作成することができます。ソートおよび検索機能を使用して、ホワイトリストの作成に使用するホストを分離することができます。

手順

-
- ステップ 1** ホスト ワークフローのテーブル ビューで、ホワイトリストを作成するホストの隣にあるチェック ボックスをオンにします。
 - ステップ 2** ページの下部で [ホワイトリストの作成 (Create White List)] をクリックします。
 - ステップ 3** 特別なニーズに応じて、ホワイト リストを変更し、保存します。
-

関連トピック

[コンプライアンス ホワイトリストの概要](#)

ホスト属性データ

Firepower システムは、検出したホストに関する情報を収集し、その情報を使用してホストプロファイルを作成します。ただし、ネットワーク上のホストについて、アナリストに提供する追加情報が存在する場合があります。ユーザは、ホストプロファイルにメモを追加する、ホストのビジネス重要度を設定する、選択する他の情報を提供する、といったことが可能です。それぞれの情報は、ホスト属性と呼ばれます。

ホストプロファイルの認定でホスト属性を使用することができます。これにより、トラフィックプロファイルの作成中に収集するデータを制約し、関連ルールをトリガーする条件を制限することができます。関連ルールに応じて属性値を設定することもできます。

関連トピック

- [ホスト属性の表示, \(27 ページ\)](#)
- [セット属性修復の設定](#)

ホスト属性の表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Firepower Management Center を使用して、システムで検出されたホストのテーブル、およびそのホスト属性を表示することができます。その後、探している情報に応じて表示方法を操作できます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザがホスト属性にアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。事前定義のワークフロー（検出されたすべてのホスト、およびそのホストの属性が記載されているホスト属性のテーブル ビューが含まれており、ホスト ビュー ページで終了するワークフロー）を使用することができます。このワークフローには、制約を満たすすべてのホストについて1つのホスト プロファイルが含まれています。

また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

手順

ステップ 1 次のように、ホスト属性データにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [ホスト属性 (Host Attributes)] を選択します。
- ホスト属性のテーブル ビューが含まれないカスタム ワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして[属性 (Attributes)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタム ワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します ([ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, \(7 ページ\)](#) を参照)。

- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます ([ホスト属性データ フィールド](#), (28 ページ) を参照) 。
 - ホスト属性を特定のホストに割り当てます ([選択したホストのホスト属性の設定](#), (29 ページ) を参照) 。
-

ホスト属性データ フィールド

ホスト属性テーブルには、MACアドレスでのみ識別されるホストは表示されないことに注意してください。

ホスト属性テーブルで表示および検索できるフィールドの説明が続きます。

[IPアドレス (IP Address)]

ホストに関連付けられている IP アドレス。

現在のユーザ (Current User)

ホストに現在ログインしているユーザの ID (ユーザ名)。

権限のないユーザがホストにログインすると、そのログインはユーザおよびホストの履歴に記録されることに注意してください。権限のあるユーザがホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行ユーザとなることがあります。ただし、権限のあるユーザがホストにログインした後は、権限のある別のユーザがログインした場合のみ、現行ユーザが変わります。また、権限のないユーザがホストの現行ユーザである場合、そのユーザを使用してユーザ制御を行うことはできません。

ホストの重要度 (Host Criticality)

ユーザが割り当てた、企業にとってのホストの重要度。ホストの重要度を相関ルールおよびポリシーで使用して、イベントに関するホストの重要度に対して、ポリシー違反および違反の応答を作成することができます。ホストの重要度に [低 (Low)]、[中 (Medium)]、[高 (High)]、または [なし (None)] を割り当てることができます。

注記 (Notes)

他のアナリストに提示する、ホストに関する情報。

コンプライアンス ホワイトリストの属性を含む、ユーザ定義のホスト属性 (Any user-defined host attribute, including those for compliance white lists)

ユーザ定義のホスト属性の値。ホスト属性テーブルには、ユーザ定義のそれぞれのホスト属性のフィールドが含まれています。

ドメイン

ホストに関連付けられているドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合にのみ表示されます。

メンバー数 (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)]フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。

関連トピック

[イベントの検索](#)

選択したホストのホスト属性の設定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst


ホストワークフローから、事前定義済みのホスト属性とユーザ定義のホスト属性を設定できます。

手順

-
- ステップ 1** ホストワークフローで、ホスト属性を追加するホストの横にあるチェックボックスをオンにします。
ヒント ソート機能と検索機能を使用して、特別な属性を割り当てるホストを分離することができます。
 - ステップ 2** ページの下部にある [属性の設定 (Set Attributes)] をクリックします。
 - ステップ 3** 必要に応じて、選択したホストに対してホストの重要度を設定します。[なし (None)]、[低 (Low)]、[中 (Medium)]、または [高 (High)] を選択できます。
 - ステップ 4** 必要に応じて、テキストボックスで、選択したホストのホストプロファイルにメモを追加します。
 - ステップ 5** 必要に応じて、自分で設定したユーザ定義のホストの属性を設定します。
 - ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
-

侵害の兆候データ

Firepower システムは、さまざまなタイプのデータ (侵入イベント、セキュリティインテリジェンス、接続イベントおよびファイルまたはマルウェア イベント) を関連付け、モニタ対象ネット

ワーク上のホストが悪意のある手段によって侵害された可能性があるかどうかを判断します。イベントデータの特定の組み合わせと頻度が、影響を受けるホストの侵害の兆候 (IOC) タグをトリガーします。このようなホストの IP アドレスは侵害を受けているホストの赤いアイコン () でイベントビューに表示されます。

IOC データは、Firepower システムの Web インターフェイスの数箇所に表示、操作を行えます。

- イベントビューア：接続、セキュリティ インテリジェンス、侵入、マルウェアや IOC 検出のイベントビューでそのイベントが IOC をトリガーしたかどうかを表示します。IOC ルールをトリガーするエンドポイントベースのマルウェア イベントは、イベントタイプが AMP IOC であり、侵害を指定するイベントサブタイプと一緒に表示されることに注意してください。イベントビューは、[分析 (Analysis)] タブ内のさまざまなタブから使用できます。
- ダッシュボード：ダッシュボードでは、サマリー ダッシュボードの [脅威 (Threats)] タブに、ホスト別の IOC タグと一定期間にトリガーされた新しい IOC ルールがデフォルトで表示されます。カスタム分析ウィジェットは IOC データに基づくプリセットを提供します。
- コンテキスト エクスプローラ：コンテキスト エクスプローラの [侵害の兆候 (Indications of Compromise)] セクションに、IOC カテゴリ別のホストとホスト別の IOC カテゴリのグラフが表示されます。
- [ネットワーク マップ (Network Map)] ページ：[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [ネットワーク マップ (Network Map)] にある [侵害の兆候 (Indications of Compromise)] タブには、侵害されている可能性があるネットワーク上のホストが侵害のタイプと IP アドレス別にグループ分けして示されます。
- [ネットワーク ファイル トrajjectory (Network File Trajectory)] 詳細ページ：[分析 (Analysis)] > [ファイル (Files)] > [ネットワーク ファイル トrajjectory (Network File Trajectory)] の下に一覧表示されているファイルの詳細ページでは、ネットワークの侵害の兆候を追跡できます。
- [侵害の兆候 (Host Indications of Compromise)] ページ：[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] メニューの下の [侵害の兆候 (Host Indications of Compromise)] ページには、モニタ対象ホストの一覧が IOC タグ別にグループ分けされて表示されます。このページのワークフローを使ってデータをドリルダウンできます。
- ホスト プロファイル ページ：侵害されている可能性があるホストのホスト プロファイルには、そのホストに関連付けられているすべての IOC タグが表示され、IOC タグの解決と IOC ルール状態の設定ができます。

侵害の兆候としてイベントにタグを付けるように設定するには、[侵害の兆候ルールの有効化](#)を参照してください。

関連トピック

[侵害の兆候ルールの有効化](#)

侵害の兆候データの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Firepower Management Center を使用して、侵害の兆候 (IOC) を示すテーブルを表示できます。検索する情報に応じてイベント ビューを操作します。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。事前定義の IOC ワークフローはプロファイルビューで終了しますが、これには、制約を満たすすべてのホストまたはユーザのホストプロファイルまたはユーザプロファイルが含まれています。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

はじめる前に

- ・システムで侵害の兆候 (IOC) を検出してタグを付けるには、ネットワーク検出ポリシーの IOC 機能をアクティブにして、少なくとも 1 つの IOC ルールを有効にする必要があります。[侵害の兆候ルールの有効化](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [侵害の兆候 (Indications of Compromise)] を選択します。
ホスト IOC のテーブルビューが含まれないカスタム ワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして [侵害の兆候 (Indications of Compromise)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- ・[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタム ワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- ・基本的なワークフロー操作を実行します ([ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, \(7 ページ\)](#) を参照)。
- ・テーブルのカラムの内容について詳しく調べます ([侵害の兆候データ フィールド, \(32 ページ\)](#) を参照)。

- [ホストの侵害の兆候 (Host Indications of Compromise)] ページ : [IP アドレス (IP Address)] カラムにある侵害されたホストのアイコン () をクリックして、侵害されたホストのホストプロファイルを表示します。
- IOC イベントに解決済みとマークして、リストに表示されないようにします。これを実行するには、編集する IOC イベントの横にあるチェックボックスをオンにして、[解決済みとマークを付ける (Mark Resolved)] をクリックします。
- [最初の確認日時 (First Seen)] または [前回の検出 (Last Seen)] カラムにある表示アイコン () をクリックして、IOC をトリガーしたイベントの詳細を表示します。

侵害の兆候データ フィールド

以下は、の IOC (侵害の兆候) テーブル内のフィールドです。すべての IOC 関連のテーブルにすべてのフィールドが含まれているわけではありません。

IP アドレス (IP Address)

IOC をトリガーとして使用したホストに関連付けられている IP アドレス。

カテゴリ (Category)

[マルウェアが実行されました (Malware Executed)] や [影響 1 の攻撃 (Impact 1 Attack)] など、示された侵害のタイプの簡単な説明。

イベントタイプ (Event Type)

特定の IOC に関連付けられている識別子で、トリガーとして使用したイベントを参照します。

説明

侵害される可能性のあるホストへの影響の説明 ([このホストはリモート制御下にある可能性があります (This host may be under remote control)] や [このホスト上でマルウェアが実行されました (Malware has been executed on this host)] など) 。

最初の確認日時/最新の確認日時 (First Seen/Last Seen)

IOC をトリガーとして使用したイベントが発生した最初 (または最新) の日付と時刻。

ドメイン (Domain)

IOC をトリガーとして使用したホストのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合にのみ表示されます。

関連トピック

[イベントの検索](#)

単一ホストにおける侵害の兆候のルール状態の編集

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst (読み取り専用を除く)

ネットワーク検出ポリシーで有効になっている場合、侵害の兆候ルールは監視対象ネットワーク内のすべてのホストに適用されます。個々のホストのルールを無効にして、無用な IOC タグを回避できます (たとえば、DNS サーバに対する IOC タグが表示されないようにできます)。適用可能なネットワーク検出ポリシーでルールを無効にすると、特定のホストに対して有効にすることができません。

手順

- ステップ 1 ホストプロファイルの [侵害の兆候 (Indications of Compromise)] セクションに移動します。
- ステップ 2 [ルール状態の編集 (Edit Rule States)] をクリックします。
- ステップ 3 ルールの [有効 (Enabled)] 列で、スライダをクリックしてこれを有効または無効にします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

侵害の兆候のタグのソース イベントの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

ホストプロファイルの [侵害の兆候 (Indications of Compromise)] セクションを使用して、IOC タグをトリガーしたイベントにすばやく移動することができます。これらのイベントを分析すると、侵害される脅威に対処するのに必要なアクション、およびアクションが必要かどうかを判断するための情報が提供されます。

IOC タグのタイムスタンプの隣の表示アイコン (🔍) をクリックすると、関連するイベントタイプのイベントのテーブルビューにナビゲートします。ここでは、IOC タグをトリガーとして使用したイベントのみが表示されます。

手順

- ステップ 1 ホスト プロファイルで、[侵害の兆候 (Indications of Compromise)] セクションに移動します。
- ステップ 2 調べたい IOC タグの [最初の痕跡 (First Seen)] または [最後の痕跡 (Last Seen)] カラムにある表示アイコン (🔍) をクリックします。

侵害の兆候タグの解決

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

侵害の兆候 (IOC) タグで示された脅威が分析および対処された後、または IOC タグが誤検出を示していると判断した場合、イベントに解決済みのマークを付けることができます。イベントに解決済みのマークを付けると、そのイベントはホストプロファイルから削除されます。プロファイル上のアクティブな IOC タグがすべて解決されると、侵害されたホストアイコン (🔴) は表示されなくなります。解決した IOC についても、IOC のトリガー元であるイベントは引き続き表示できます。

IOC タグをトリガーしたイベントが繰り返された場合、ホストに対する IOC ルールが無効にされていない限り、このタグが再び設定されます。

手順

- ステップ 1 ホスト プロファイルで、[侵害の兆候 (Indications of Compromise)] セクションに移動します。
- ステップ 2 次の 2 つの選択肢があります。
 - 個別の IOC タグに解決済みのマークを付けるには、解決するタグの右にある削除アイコン (🗑️) をクリックします。
 - プロファイル上のすべての IOC タグに解決済みのマークを付けるには、[すべてに解決済みのマークを付ける (Mark All Resolved)] をクリックします。

サーバデータ

Firepower システムは、モニタ対象ネットワーク セグメント上のホストで稼動しているすべてのサーバに関する情報を収集します。この情報には次のものが含まれます。

- サーバの名前
- サーバが使用するアプリケーションとネットワーク プロトコル
- サーバのベンダーとバージョン
- サーバを実行しているホストに関連付けられている IP アドレス
- サーバが通信するポート

システムはサーバを検出すると、関連するホストがまだサーバの最大数に達していない場合は、ディスカバリ イベントを生成します。Firepower Management Center の Web インターフェイスを使用して、サーバイベントを表示、検索、削除できます。

また、サーバイベントを相関ルールのベースにすることもできます。たとえばシステムが、いずれかのホスト上で稼動している ircd などのチャット サーバを検出したときに相関ルールをトリガーできます。

システムは、ホストをエクスポートされた NetFlow レコードからネットワーク マップに追加できますが、これらのホストに使用できる情報は限られます ([NetFlow データと管理対象デバイスデータの違い](#)を参照)。

関連トピック

- [ホスト制限と検出イベント ロギング](#)
- [NetFlow データと管理対象デバイス データの違い](#)

サーバデータの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Firepower Management Center を使用して、検出されたサーバのテーブルを表示できます。ここでユーザは、検索する情報に応じてイベント ビューを操作することができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザがサーバにアクセスしたときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。事前定義されたすべてのワークフローはホストビューで終了しますが、このホストビューには、制約を満たすすべてのホストに対して1つずつホストプロファイルが含まれています。ま

た、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

手順

ステップ 1 次のように、サーバ データにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [サーバ (Servers)] を選択します。
- サーバのテーブル ビューが含まれていないカスタム ワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして [サーバ (Servers)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタムワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します ([ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, \(7 ページ\)](#) を参照)。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます ([サーバデータフィールド, \(36 ページ\)](#) を参照)。
- 編集するサーバのイベントの横にあるチェック ボックスをオンにし、[サーバアイデンティティの設定 (Set Server Identity)] をクリックすることによって、サーバのアイデンティティを編集します。

関連トピック

[サーバのアイデンティティの編集](#)

サーバ データ フィールド

サーバ テーブルで表示および検索できるフィールドの説明は次のとおりです。

前回の使用 (Last Used)

ネットワーク上でサーバが最後に使用された日付と時間、またはホスト入力機能を使用してサーバが最初に更新された日付と時間。[前回の使用 (Last Used)] の値は、システムがサーバ情報の更新を検出したときだけでなく、少なくともユーザがネットワーク検出ポリシーに設定した更新間隔の頻度で更新されます。

[IP アドレス (IP Address)]

サーバを実行しているホストに関連付けられている IP アドレス。

[ポート (Port)]

サーバが稼動しているポート。

プロトコル

サーバが使用するネットワークまたはトランスポートプロトコル。

アプリケーションプロトコル (Application Protocol)

次のいずれかです。

- サーバのアプリケーションプロトコルの名前
- `pending` : システムで、いずれかの理由でサーバをポジティブまたはネガティブに識別できない場合
- `unknown` : 既知のサーバフィンガープリントに基づいてシステムでサーバを識別できない場合、またはホストの入力を介してサーバが追加され、アプリケーションプロトコルが含まれていなかった場合

アプリケーションプロトコルのカテゴリ、タグ、リスク、またはビジネスとの関連性 (Category, Tags, Risk, or Business Relevance for Application Protocols)

アプリケーションプロトコルに割り当てられているカテゴリ、タグ、リスクレベル、およびビジネスとの関連性。これらのフィルタを使用して、特定のデータセットを対象にすることができます。

ベンダー (Vendor)

次のいずれかです。

- サーバのベンダー : システム、Nmap、その他のアクティブなソースで識別された、またはホスト入力機能を使用して指定されたサーバのベンダー
- 空白 : システムが既知のサーバフィンガープリントに基づいてベンダーを識別できなかった場合、または NetFlow データを使用してサーバがネットワーク マップに追加された場合

バージョン (Version)

次のいずれかです。

- サーバのバージョン : システム、Nmap、その他のアクティブなソースで識別された、またはホスト入力機能を使用して指定されたサーバのバージョン
- 空白 : システムが既知のサーバフィンガープリントに基づいてバージョンを識別できなかった場合、または NetFlow データを使用してサーバがネットワーク マップに追加された場合

Web アプリケーション (Web Application)

HTTP トラフィックでシステムが検出したペイロード コンテンツに基づいた Web アプリケーション。システムが HTTP のアプリケーション プロトコルを検出したものの、特定の Web アプリケーションを検出できない場合は、一般的な Web ブラウジングの指定が提示されるので注意してください。

Web アプリケーションのカテゴリ、タグ、リスク、またはビジネスとの関連性 (Category, Tags, Risk, or Business Relevance for Web Applications)

Web アプリケーションに割り当てられているカテゴリ、タグ、リスク レベル、およびビジネスとの関連性。これらのフィルタを使用して、特定のデータ セットを対象にすることができます。

ヒット数 (Hits)

サーバがアクセスされた回数。ホスト入力機能を使用して追加されたサーバの場合、この値は必ず 0 になります。

ソース タイプ (Source Type)

次の値のいずれかを指定します。

- [ユーザ (User)] : `user_name`
- [アプリケーション (Application)] : `app_name`
- スキャナ : `scanner_type` (ネットワーク検出の設定を介して追加された Nmap またはスキャナ)
- Firepower システムによって検出されたサーバの `Firepower`、`Firepower Port Match`、または `Firepower Pattern Match`
- NetFlow データを使用して追加されたサーバの `NetFlow`

ドメイン

サーバを実行しているホストのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

Device

トラフィックを検出した管理対象デバイスか、NetFlow またはホスト入力データを処理したデバイスのいずれか。

現在のユーザ (Current User)

ホストに現在ログインしているユーザの ID (ユーザ名)。

権限のないユーザがホストにログインすると、そのログインはユーザおよびホストの履歴に記録されます。権限のあるユーザがそのホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行 (現在の) ユーザとなることが可能です。ただし、権限のあるユーザがホストにログインした後は、権限のある別のユーザがログインした場合のみ、現行ユーザが変わります。

また、権限のないユーザがホストの現行ユーザである場合、そのユーザを使用してユーザ制御を行うことはできません。

メンバー数 (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。このフィールドが表示されるのは、2 つ以上の同一の行を作成する制限を適用した後のみです。

関連トピック

[イベントの検索](#)

[ネットワーク検出のデータ ストレージ設定](#)

アプリケーション データとアプリケーション 詳細データ

監視対象ホストが別のホストに接続すると、システムは多くの場合、どのアプリケーションが使用されたかを判断することができます。Firepower システムは、電子メール、インスタントメッセージ、ピアツーピア、Web アプリケーション、およびその他のタイプのアプリケーションが多用されると検出します。

検出されたそれぞれのアプリケーションに対してシステムは、アプリケーションを使用した IP アドレス、製品、バージョン、および使用が検出された回数を記録します。Web インターフェイスを使用して、アプリケーション イベントを表示、検索、および削除できます。ホスト入力機能を使用して、1 つ以上のホスト上のアプリケーション データを更新することもできます。

どのアプリケーションがどのホストで稼動しているかがわかっている場合は、その情報をもとにホストプロファイルの認定を作成し、この認定によって、トラフィックプロファイルの作成中に収集するデータを制約することができます。また、関連ルールをトリガーする条件を制約することもできます。また、アプリケーションの検出を関連ルールのベースにすることもできます。たとえば、従業員に特定のメールクライアントを使用させたい場合は、システムが、いずれかの対象ホストで別のメールクライアントが稼動していることを検出したときに関連ルールをトリガーすることができます。

Firepower のアプリケーション データに関する最新情報は、各 Firepower システム更新のリリース ノート、各 VDB 更新のアドバイザリをよくご確認ください。

分析用にアプリケーション データを収集および保存するには、ネットワーク検出ポリシーでアプリケーションの検出が有効になっていることを確認します。

アプリケーション データの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Firepower Management Center を使用して、検出されたアプリケーションのテーブルを表示できます。ここでユーザは、検索する情報に応じてイベント ビューを操作することができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザがアプリケーションにアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

手順

ステップ 1 次のようにして、アプリケーション データにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [アプリケーション 詳細 (Application Details)] を選択します。
- アプリケーションの詳細のテーブル ビューが含まれないカスタム ワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして [クライアント (Clients)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタム ワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します (ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, (7 ページ) を参照)。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます (アプリケーション データ フィールド, (40 ページ) を参照)。
- クライアント、アプリケーション プロトコル、Web アプリケーションの横にあるアプリケーション 詳細ビューのアイコン (🔍) をクリックすることによって、特定のアプリケーションの [アプリケーション 詳細ビュー (Application Detail View)] を開きます。

アプリケーション データ フィールド

システムは、既知のクライアント、アプリケーション プロトコル、または Web アプリケーションについてトラフィックを検出すると、アプリケーション およびそのアプリケーションを実行しているホストに関する情報をログに記録します。

次に、アプリケーション テーブルで表示および検索できるフィールドについて説明します。

Application

検出されたアプリケーションの名前。

[IPアドレス (IP Address)]

アプリケーションを使用しているホストに関連付けられている IP アドレス。

タイプ (Type)

アプリケーションのタイプであり、次のものがあります。

アプリケーション プロトコル (Application Protocols)

ホスト間の通信を意味します。

クライアント アプリケーション

ホスト上で動作しているソフトウェアを意味します。

Web アプリケーション (Web Applications)

HTTP トラフィックの内容や要求された URL を意味します。

カテゴリ (Category)

アプリケーションの最も不可欠な機能を表す一般的な分類。各アプリケーションは、少なくとも 1 つのカテゴリに属します。

タグ

アプリケーションに関する追加情報。アプリケーションには任意の数のタグを付けることができます (タグなしも可能)。

リスク (Risk)

アプリケーションが組織のセキュリティ ポリシーに違反することがある目的で使用される可能性。アプリケーションのリスクの範囲は、[極めて低 (Very Low)] から [極めて高 (Very High)] までです。

侵入イベントをトリガーしたトラフィックで検出される Application Protocol Risk、Client Risk、Web Application Risk の 3 つ (存在する場合) の中で最も高いものとなります。

ビジネスとの関連性 (Business Relevance)

アプリケーションが、娯楽目的ではなく、組織のビジネス活動の範囲内で使用される可能性。アプリケーションのビジネスとの関連性の範囲は、[極めて低 (Very Low)] から [極めて高 (Very High)] までです。

侵入イベントをトリガーしたトラフィックで検出される Application Protocol Business Relevance、Client Business Relevance、Web Application Business Relevance の 3 つ (存在する場合) の中で最も低いものとなります。

現在のユーザ (Current User)

ホストに現在ログインしているユーザの ID (ユーザ名)。

権限のないユーザがホストにログインすると、そのログインはユーザおよびホストの履歴に記録されることに注意してください。権限のあるユーザがホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行ユーザとなることができます。ただし、権限のあるユーザがホストにログインした後は、権限のある別のユーザがログインした場合のみ、現行ユーザが変わります。また、権限のないユーザがホストの現行ユーザである場合、そのユーザを使用してユーザ制御を行うことはできません。

ドメイン

アプリケーションを使用しているホストのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

メンバー数 (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)] フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。

関連トピック

[イベントの検索](#)

アプリケーション詳細データの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Firepower Management Center を使用して、検出されたアプリケーションの詳細テーブルを表示できます。ここでユーザは、検索する情報に応じてイベントビューを操作することができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザがアプリケーションの詳細にアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。2つの事前定義されたワークフローがあります。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタムワークフローを作成することもできます。


手順

ステップ 1 次のようにして、アプリケーション詳細データにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [アプリケーション詳細 (Application Details)] を選択します。

- アプリケーションの詳細のテーブルビューが含まれないカスタムワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))]をクリックして[クライアント (Clients)]を選択します。

ステップ2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))]をクリックしてカスタムワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します (ディスカバリおよびアイデンティティワークフローの使用, (7 ページ) を参照)。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます (アプリケーションの詳細データフィールド, (43 ページ) を参照)。
- クライアントの横にあるアプリケーション詳細ビューのアイコン () をクリックして、特定のアプリケーションの [アプリケーション詳細ビュー (Application Detail View)]を開きます。

アプリケーションの詳細データ フィールド

システムは、既知のクライアント、アプリケーションプロトコル、またはWebアプリケーションについてトラフィックを検出すると、アプリケーションおよびそのアプリケーションを実行しているホストに関する情報をログに記録します。

次に、アプリケーションの詳細テーブルで表示および検索できるフィールドについて説明します。

前回の使用 (Last Used)

アプリケーションが前回使用された時間、またはホスト入力機能を使用してアプリケーションデータが更新された時間。[前回の使用 (Last Used)]の値は、システムがアプリケーション情報の更新を検出したときだけでなく、少なくともユーザがネットワーク検出ポリシーに設定した更新間隔の頻度で更新されます。

[IPアドレス (IP Address)]

アプリケーションを使用しているホストに関連付けられている IP アドレス。

クライアント (Client)

アプリケーションの名前。ただし、システムがアプリケーションプロトコルを検出したにも関わらず特定のクライアントを検出できなかった場合は、アプリケーションプロトコル名に client が付加されて一般名が表示されます。

バージョン (Version)

アプリケーションのバージョン。

クライアント、アプリケーションプロトコル、およびWebアプリケーションのカテゴリ、タグ、リスク、またはビジネスとの関係性 (**Category, Tags, Risk, or Business Relevance for Clients, Application Protocols, and Web Applications**)

アプリケーションに割り当てられているカテゴリ、タグ、リスクレベル、およびビジネスとの関連性。これらのフィルタを使用して、特定のデータセットを対象にすることができます。

アプリケーションプロトコル (Application Protocol)

アプリケーションで使用されるアプリケーションプロトコル。ただし、システムがアプリケーションプロトコルを検出したにも関わらず特定のクライアントを検出できなかった場合は、アプリケーションプロトコル名に `client` が付加されて一般名が表示されます。

Webアプリケーション (Web Application)

HTTP トラフィックでシステムが検出したペイロードコンテンツまたは URL に基づく Web アプリケーション。ただし、HTTP のアプリケーションプロトコルが検出されたにも関わらず特定の Web アプリケーションを検出できない場合、ここには、標準の Web 閲覧先が表示されます。

ヒット数 (Hits)

システムが使用中のアプリケーションを検出した回数。ホスト入力機能を使用して追加されたアプリケーションの場合、この値は常に 0 になります。

ドメイン

アプリケーションを使用しているホストのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

Device

アプリケーションの詳細が含まれている検出イベントを生成したデバイス。

現在のユーザ (Current User)

ホストに現在ログインしているユーザの ID (ユーザ名)。

権限のないユーザがホストにログインすると、そのログインはユーザおよびホストの履歴に記録されることに注意してください。権限のあるユーザがホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行ユーザとなることができます。ただし、権限のあるユーザがホストにログインした後は、権限のある別のユーザがログインした場合のみ、現行ユーザが変わります。また、権限のないユーザがホストの現行ユーザである場合、そのユーザを使用してユーザ制御を行うことはできません。

メンバー数 (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)] フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。

関連トピック

- [イベントの検索](#)
- [ネットワーク検出のデータ ストレージ設定](#)

脆弱性データ

Firepower システムには、それ独自の脆弱性追跡データベースが含まれています。そのデータベースは、このシステムのフィンガープリンティング機能と組み合わせて使用されて、ネットワーク上のホストに関連付けられている脆弱性が特定されます。ホストで稼動しているオペレーティングシステム、サーバ、およびクライアントには、関連付けられている異なる脆弱性一式があります。

Firepower Management Center を使用して次のことを行えます。

- ホストごとの脆弱性を追跡および確認できます。
- ホストにパッチを適用した後、またはホストが脆弱性に影響されないと判断した場合は、そのホストの脆弱性を非アクティブにすることができます。

サーバで使用されるアプリケーションプロトコルが Firepower Management Center 構成内でマップされない限り、ベンダーレスおよびバージョンレスのサーバの脆弱性はマップされません。ベンダーレスおよびバージョンレスのクライアントの脆弱性はマップできません。

関連トピック

- [サーバの脆弱性のマッピング](#)

脆弱性データのフィールド

以下に説明する脆弱性データのフィールドは、脆弱性のテーブルビューと脆弱性の詳細表示で次のように表示されます。

表 1: 表示場所別の脆弱性データ フィールド

フィールド	テーブルビュー	詳細の表示
その他の情報	No	Yes
使用可能なエクスプロイト (Available Exploits)	Yes	Yes
Bugtraq ID	Yes	Yes
CVE ID	No	Yes
メンバー数 (Count)	Yes	No

フィールド	テーブル ビュー	詳細の表示
発行日 (Date Published)	Yes	Yes
説明	Yes	Yes
修正 (Fixes)	No	Yes
影響修飾子 (Impact Qualification)	No	Yes
[リモート (Remote)]	Yes	Yes
Snort ID	Yes	Yes
ソリューション	Yes	Yes
SVID	Yes	Yes
技術的説明 (Technical Description)	Yes	Yes
役職 (Title)	Yes	Yes
脆弱性の影響 (Vulnerability Impact)	Yes	Yes

その他の情報

既知の不正利用や可用性、不正利用のシナリオ、脆弱性を軽減する方針など、脆弱性に関する追加情報を（利用可能な場合に）表示するには、矢印をクリックします。

使用可能なエクスプロイト (Available Exploits)

脆弱性に対して既知の不正利用があるかどうかを示します (TRUE/FALSE)。

Bugtraq ID

Bugtraq データベースにおいて脆弱性に関連付けられている識別番号。 (<http://www.securityfocus.com/bid/>)

メンバー数 (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)]フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。

CVE ID

MITRE の Common Vulnerabilities and Exposures (CVE) データベースで、脆弱性に関連付けられている識別番号 (<http://www.cve.mitre.org/>)。

発行日 (Date Published)

脆弱性が公開された日付。

説明

脆弱性についての簡単な説明。

修正 (Fixes)

選択した脆弱性に対して、ダウンロード可能なパッチへのリンクを提供します。



ヒント

修正ファイルまたはパッチのダウンロードに対する直接リンクが表示されている場合は、リンクを右クリックして、自分のローカル コンピュータへ保存します。

影響修飾子 (Impact Qualification)

ドロップダウンリストを使用して、脆弱性を有効または無効にします。Firepower Management Center は、影響の相関関係において、無効な脆弱性を無視します。

ユーザがここで指定する設定によって、システム全体で脆弱性がどのように処理されるか、およびユーザが値を選択するホスト プロファイルに脆弱性が限定されないかが決まります。

[リモート (Remote)]

脆弱性がリモートで不正利用されるかどうかを示します (TRUE/FALSE)。

Snort ID

Snort ID (SID) データベースにおいて脆弱性に関連付けられている識別番号。つまり、侵入ルールで特定の脆弱性を悪用するネットワーク トラフィックを検出できる場合、その脆弱性は、侵入ルールの SID に関連付けられます。

脆弱性は複数の SID に関連付けることが可能 (または SID に関連付けないことも可能) であることに注意してください。脆弱性が複数の SID に関連付けられている場合、脆弱性テーブルには、各 SID に対して 1 つのローが含まれています。

ソリューション

脆弱性の修復に関する情報。

SVID

脆弱性を追跡するためにシステムで使用する Cisco の脆弱性識別番号。

SVID について脆弱性の詳細にアクセスするには、表示アイコン (🔍) をクリックします。

技術的説明 (Technical Description)

脆弱性に関する詳細な技術的説明。

役職 (Title)

脆弱性のタイトル。

脆弱性の影響 (Vulnerability Impact)

Bugtraq データベースにおいて脆弱性に割り当てられている重大度を示します。0 ~ 10 の値で、10 が最も重大です。脆弱性の影響は、Bugtraq エントリの作成者によって決定されます。この作成者は、自身の判断および SANS Critical Vulnerability Analysis (CVA) の基準に従って脆弱性の影響を決定します。

関連トピック

[イベントの検索](#)

脆弱性の非アクティブ化

脆弱性を非アクティブ化すると、システムでこの脆弱性を使用して侵入の影響の関連付けを評価することができなくなります。ネットワーク上のホストにパッチを適用した後、またはホストが脆弱性の影響を受けないと判断した後に、脆弱性を非アクティブ化できます。システムが、この脆弱性から影響を受けている新しいホストを検出すると、この脆弱性はこのホストに対して有効であると見なされます (自動的に非アクティブ化されません)。

IP アドレスによって制約されていない脆弱性ワークフロー内である 1 つの脆弱性を非アクティブ化すると、ネットワーク上の検出されたすべてのホストに対してその脆弱性が非アクティブ化されます。脆弱性ワークフロー内の脆弱性を非アクティブ化できるのは、次の各ページだけです。

- デフォルトの脆弱性ワークフローの 2 ページ目の [ネットワーク上の脆弱性 (Vulnerabilities on the Network)]。これには、ネットワーク上のホストに適用される脆弱性のみが表示されます。
- 脆弱性ワークフロー (カスタムまたは事前定義) のページ。このワークフローは、検索を使用して IP アドレスに基づいて制約されます。

1 台のホストに対して 1 つの脆弱性を非アクティブ化できます。この非アクティブ化は、ネットワークマップの使用、ホストのホストプロファイルの使用、または脆弱性を非アクティブ化する対象の 1 つ以上のホストの IP アドレスに基づいて脆弱性ワークフローを制約することによって行えます。関連付けられた複数の IP アドレスを持つホストの場合、この機能はそのホストの選択された 1 つの IP アドレスのみに適用されます。

マルチドメイン展開では、先祖ドメインで脆弱性を非アクティブ化すると、すべての子孫ドメインでその脆弱性が非アクティブ化されます。先祖ドメインで脆弱性をアクティブにした場合、リー

ドメインでは、そのドメインにあるデバイスに対して脆弱性のアクティブ化または非アクティブ化を実行できます。

関連トピック

- [個々のホストに対する脆弱性の非アクティブ化](#)
- [個々の脆弱性の非アクティブ化](#)
- [複数の脆弱性の非アクティブ化, \(50 ページ\)](#)

脆弱性データの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Firepower Management Center を使用して、脆弱性のテーブルを表示できます。ここでユーザは、検索する情報に応じてイベント ビューを操作することができます。

脆弱性にアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。ユーザは事前定義のワークフローを使用できますが、これには脆弱性のテーブル ビューが含まれています。検出されたいずれかのホストが脆弱性を示しているかどうかに関係なく、テーブル ビューにはデータベース内の各脆弱性に対して 1 つのローが含まれています。事前定義のワークフローの 2 ページ目には、ネットワーク上で検出されたホストに適用されるそれぞれの脆弱性（まだユーザが非アクティブにしていないもの）に対して 1 つの行が含まれています。事前定義のワークフローは脆弱性の詳細ビューで終了しますが、このビューには、制約を満たすすべての脆弱性について詳細な説明が含まれています。



ヒント

単一のホストまたはホストのセットに適用される脆弱性を表示する場合は、ホストの IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を指定して、脆弱性の検索を実行します。

また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

脆弱性のテーブルは、マルチドメイン展開のドメインによって制限されません。

手順

ステップ 1 次のように、脆弱性のテーブルにアクセスします。

- 事前定義された脆弱性ワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] を選択します。

- 脆弱性テーブルビューが含まれないカスタムワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして[脆弱性 (Vulnerabilities)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- 基本的なワークフロー操作を実行します (ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, (7 ページ) を参照)。
- 脆弱性を非アクティブにして、現在脆弱な状態にあるホストについて、侵入の影響の相関に使用しないようにします (複数の脆弱性の非アクティブ化, (50 ページ) を参照)。
- SVID カラムの表示アイコン (🔍) をクリックして、脆弱性に関する詳細を表示します。または、脆弱性 ID を制約して脆弱性の詳細ページへドリルダウンします。
- タイトルを右クリックして [フルテキストの表示 (Show Full Text)] を選択することによって、脆弱性タイトルのフルテキストを表示します。

脆弱性の詳細の表示

手順

脆弱性の詳細は、次の方法のいずれかで表示できます。

- [分析 (Analysis)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] を選択し、SVID の横にある表示アイコン (🔍) をクリックします。
- [分析 (Analysis)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] > [サードパーティの脆弱性 (Third Party Vulnerabilities)] を選択し、SVID の横にある表示アイコン (🔍) をクリックします。
- [分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [ネットワーク マップ (Network Map)] を選択し、[脆弱性 (Vulnerabilities)] タブをクリックします。
- 脆弱性の影響を受けるホストのプロファイルを表示し、そのプロファイルの [脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションを展開します。

複数の脆弱性の非アクティブ化

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

IP アドレスで制約されていない脆弱性ワークフロー内で脆弱性を非アクティブにすると、ネットワーク上で検出されたすべてのホストに対する脆弱性が非アクティブ化されます。

マルチドメイン導入では、先祖ドメインで脆弱性を非アクティブ化すると、すべての子孫ドメインでも脆弱性が非アクティブ化されます。リーフドメインは、先祖ドメインで脆弱性がアクティブ化されている場合、自分のデバイスの脆弱性をアクティブ化または非アクティブ化できます。

手順

-
- ステップ 1** 次のように、脆弱性のテーブルにアクセスします。
- 事前定義された脆弱性ワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] を選択します。
 - 脆弱性テーブルビューが含まれないカスタムワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして [脆弱性 (Vulnerabilities)] を選択します。
- ステップ 2** [ネットワークの脆弱性 (Vulnerabilities on the Network)] をクリックします。
- ステップ 3** 非アクティブにする脆弱性の横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** ページ下部の [レビュー (Review)] をクリックします。
-

関連トピック

- [個々のホストに対する脆弱性の非アクティブ化](#)
- [個々の脆弱性の非アクティブ化](#)

サードパーティの脆弱性データ

Firepower システムには、それ独自の脆弱性追跡データベースが含まれています。そのデータベースは、このシステムのフィンガープリンティング機能と組み合わせて使用されて、ネットワーク上のホストに関連付けられている脆弱性が特定されます。

システムの脆弱性データは、サードパーティ製のアプリケーションからインポートしたネットワークマップデータで補完できます。これを行うには、組織で、このデータをインポートするためのスクリプトを記述できるか、コマンドラインでファイルのインポートを作成できなければなりません。詳細については、*Firepower System Host Input API Guide* を参照してください。

インポートしたデータを影響の相関に含めるには、サードパーティの脆弱性情報を、データベース内のオペレーティングシステムおよびアプリケーションの定義にマップする必要があります。サードパーティの脆弱性情報は、クライアントの定義にマップすることはできません。

サードパーティの脆弱性データの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

ホスト入力機能を使用してサードパーティの脆弱性データをインポートした後で、Firepower Management Center を使用してサードパーティの脆弱性のテーブルを表示することができます。ここでユーザは、検索する情報に応じてイベント ビューを操作することができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

サードパーティの脆弱性にアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。2つの事前定義されたワークフローがあります。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

手順

ステップ 1 次のようにして、サードパーティの脆弱性データにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] > [サードパーティの脆弱性 (Third Party Vulnerabilities)] を選択します。
- サードパーティの脆弱性のテーブル ビューが含まれないカスタム ワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして [送信元別の脆弱性 (Vulnerabilities by Source)] または [IP アドレス別の脆弱性 (Vulnerabilities by IP Address)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタムワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します (ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, (7 ページ) を参照)。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます (サードパーティの脆弱性データのフィールド, (53 ページ) を参照)。
- SVID カラムの表示アイコン (🔍) をクリックして、サードパーティの脆弱性に関する詳細を表示します。または、脆弱性 ID を制約して脆弱性の詳細ページへドリルダウンします。

サードパーティの脆弱性データのフィールド

サードパーティの脆弱性テーブルで表示および検索できるフィールドの詳細は以下のとおりです。

脆弱性ソース (Vulnerability Source)

サードパーティの脆弱性のソース (QualysGuard、NeXpose など)。

脆弱性 ID (Vulnerability ID)

ソースの脆弱性に関連付けられている ID 番号。

[IPアドレス (IP Address)]

脆弱性の影響を受けるホストに関連付けられている IP アドレス。

[ポート (Port)]

ポート番号 (脆弱性が、特定のポート上で実行されているサーバに関連付けられている場合)。

Bugtraq ID


Bugtraq データベースにおいて脆弱性に関連付けられている識別番号。 (<http://www.securityfocus.com/bid/>)

CVE ID

MITRE の Common Vulnerabilities and Exposures (CVE) データベースで、脆弱性に関連付けられている識別番号 (<http://www.cve.mitre.org/>)。

SVID

脆弱性を追跡するためにシステムで使用する従来の脆弱性識別番号。

SVID について脆弱性の詳細にアクセスするには、表示アイコン () をクリックします。

Snort ID

Snort ID (SID) データベースにおいて脆弱性に関連付けられている識別番号。つまり、侵入ルールで特定の脆弱性を悪用するネットワークトラフィックを検出できる場合、その脆弱性は、侵入ルールの SID に関連付けられます。

脆弱性は複数の SID に関連付けることが可能 (または SID に関連付けないことも可能) であることに注意してください。脆弱性が複数の SID に関連付けられている場合、脆弱性テーブルには、各 SID に対して 1 つのローが含まれています。

役職 (Title)

脆弱性のタイトル。

説明

脆弱性についての簡単な説明。

ドメイン

この脆弱性を持つホストのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

メンバー数 (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)]フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。

関連トピック

[イベントの検索](#)

ユーザおよびユーザ アクティビティ データ

ユーザおよびユーザ アクティビティ データは、個々のユーザ関連のワークフローに表示されません。

- ユーザ：このワークフローは、ネットワークで認識されるすべてのユーザを表示します。この表では1ユーザが1つの行を占めます。詳細については、[ユーザ データ \(User Data\)](#)、(59 ページ) を参照してください。
- ユーザ アクティビティ：このワークフローは、ネットワークで認識されるすべてのユーザ アクティビティを表示します。この表では、複数のユーザ アクティビティ インスタンスを持つ1ユーザが複数の行を占めます。詳細については、[ユーザ アクティビティ データ](#)、(62 ページ) を参照してください。

これらのワークフローの入力元であるアイデンティティソースの詳細については、[ユーザ アイデンティティ ソースについて](#)を参照してください。

ユーザ関連フィールド

ユーザ関連データは、ユーザおよびユーザ アクティビティのテーブルに表示されます。

表 2: ユーザおよびユーザアクティビティのフィールドの説明

フィールド	説明	[ユーザテーブル (Users Table)]	[ユーザアクティビティ (User Activity)]テーブル
認証タイプ (Authentication Type)	認証のタイプ: [認証なし (No Authentication)], [パッシブ認証 (Passive Authentication)], [アクティブ認証 (Active Authentication)], [ゲスト認証 (Guest Authentication)], または [失敗した認証 (Failed Authentication)]。	なし	○
メンバー数 (Count)	(注) [カウント (Count)]フィールドは、制約を適用した結果、同じ行が複数作成された場合にのみ表示されます。 特定の行に表示される情報と一致するユーザまたはイベントの数。	○	○
現在の IP (Current IP)	ユーザがログインしたホストに関連付けられている IP アドレス。ユーザがログインした後で、権限を持っている他のユーザが同じ IP アドレスでホストにログインすると、このフィールドは空白になります。ただし、あるユーザが権限を持っており、新しいユーザが権限を持っていない場合は除きます。(システムは、IP アドレスと、最後にホストにログインした権限のあるユーザを関連付けます。)	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
部署名 (Department)	ユーザの部署 (レルムが取得)。サーバ上のユーザに明示的に関連付けられている部門がない場合、この部門は、サーバが割り当てられているいずれかのデフォルトグループとして示されます。たとえば、Active Directory では、これは Users (ad) となります。以下の場合、このフィールドは空白になります。 <ul style="list-style-type: none"> • レルムを設定していない。 • Firepower Management Center が、Management Center データベースのユーザと LDAP レコードを関連させていない (AIM、Oracle、または SIP ログインによってユーザがデータベースに追加された場合など) 。 	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
説明	ユーザまたはユーザアクティビティについての詳細情報 (利用可能な場合) 。	なし	○

フィールド	説明	[ユーザテーブル (Users Table)]	[ユーザアクティビティ (User Activity)] テーブル
Device	トラフィックベースの検出によって検出されたユーザアクティビティの場合、ユーザを検出したデバイスの名前。他のタイプのユーザアクティビティの場合は、管理している側の Firepower Management Center になります。	なし	○
ドメイン	[ユーザ (Users)] テーブルでは、ユーザのレルムに関連付けられたドメイン。 [ユーザアクティビティ (User Activity)] テーブルでは、ユーザアクティビティが検出されたドメイン。 このフィールドは、マルチテナンシーのために Firepower Management Center を設定したことがある場合に表示されます。	○	○
電子メール (E-Mail)	ユーザのメールアドレス。以下の場合、このフィールドは空白になります。 <ul style="list-style-type: none">• AIM ログインによってユーザがデータベースに追加された。• LDAP ログインによってユーザがデータベースに追加されており、LDAP サーバ上にユーザと関連付けられている電子メールアドレスが存在しない。	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
イベント	ユーザアクティビティのタイプ。	なし	○
名	ユーザの名 (レルムが取得)。以下の場合、このフィールドは空白になります。 <ul style="list-style-type: none">• レルムを設定していない。• Firepower Management Center が、Management Center データベースのユーザと LDAP レコードを関連させていない (AIM、Oracle、または SIP ログインによってユーザがデータベースに追加された場合など)。• サーバに、対象のユーザと関連付けられている名がない。	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]

フィールド	説明	[ユーザテーブル (Users Table)]	[ユーザアクティビティ (User Activity)] テーブル
[IPアドレス (IP Address)]	<p>「ユーザログイン (User Login) 」アクティビティの場合はログインに関連する IP アドレスです。ユーザのホストの IP アドレス (LDAP、POP3、IMAP、FTP、HTTP、MDNS、および AIM ログインの場合) 、サーバの IP アドレス (SMTP および Oracle ログインの場合) 、またはセッションの開始者の IP アドレス (SIP ログインの場合) のいずれかになります。</p> <p>関連付けられている IP アドレスは、そのユーザが IP アドレスの現行のユーザであることを意味するわけではないので注意してください。権限を持たないユーザがホストにログインすると、そのログインはユーザおよびホストの履歴に記録されます。権限のあるユーザがホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行ユーザとなることができます。ただし、権限のあるユーザがホストにログインした後は、権限のある別のユーザがログインした場合のみ、現行ユーザが変わります。</p> <p>他のタイプのユーザ アクティビティの場合、このフィールドは空白です。</p>	なし	○
姓	<p>ユーザの姓 (レルムが取得) 。以下の場合、このフィールドは空白になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • レルムを設定していない。 • Firepower Management Center が、Management Center データベースのユーザと LDAP レコードを関連させていない (AIM、Oracle、または SIP ログインによってユーザがデータベースに追加された場合など) 。 • サーバに、対象のユーザと関連付けられている姓がない。 	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]

ユーザおよびユーザアクティビティ データ

フィールド	説明	[ユーザテーブル (Users Table)]	[ユーザアクティビティ (User Activity)] テーブル
電話	<p>ユーザの電話番号（レルムが取得）。以下の場合、このフィールドは空白になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • レルムを設定していない。 • Firepower Management Center が、Management Center データベースのユーザと LDAP レコードを相関させていない（AIM、Oracle、または SIP ログインによってユーザがデータベースに追加された場合など）。 • サーバに、対象のユーザと関連付けられている電話番号が存在しない。 	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
レルム	ユーザに関連付けられているアイデンティティ レルム。	○	○
時刻 (Time)	システムがユーザ アクティビティを検出した時間。	なし	○
タイプ (Type)	ユーザの検出に使用されるプロトコル。これは、ldap、pop3、imap、oracle、sip、http、ftp、mdns、aim のいずれかです。ユーザは SMTP ログインに基づいてデータベースに追加されることはないため、このフィールドには smtp は表示されません。	○	○
ユーザ (User)	<p>このフィールドには少なくとも、ユーザのレルムとユーザ名が表示されます。たとえば、Lobby\jsmith と表示された場合は、Lobby がレルム、jsmith がユーザ名です。</p> <p>レルムが LDAP サーバから追加のユーザ データをダウンロードし、システムがそれをユーザに関連付けた場合は、このフィールドにユーザの名、姓、タイプも表示されます。たとえば、John Smith (Lobby\jsmith, LDAP) と表示された場合は、John Smith がユーザの名前、LDAP がそのタイプです。</p> <p>(注) トラフィックベースの検出では失敗した AIM ログインが記録される可能性があるため（たとえば、ユーザが正しくないユーザ名を入力した場合など）、Firepower Management Center は無効な AIM ユーザを保存する可能性があります。</p>	[はい (Yes)]	[いいえ (No)]
[ユーザ名 (Username)]	ユーザに関連付けられているユーザ名。	○	○

ユーザ データ (User Data)

アイデンティティ ソースが、データベースに存在しないユーザのユーザ ログインを報告した場合、そのログインタイプが特に制限されていない限り、そのユーザはデータベースに追加されません。

次のいずれかが発生すると、システムはユーザ データベースを更新します。

- Firepower Management Center のユーザが、[ユーザ (Users)] テーブルから権限のないユーザを手動で削除する。
- アイデンティティ ソースが、そのユーザによるログオフを報告する。
- レルムがレルムの [ユーザセッションのタイムアウト：認証されたユーザ (User Session Timeout: Authenticated Users)] 設定、[ユーザセッションのタイムアウト：認証に失敗したユーザ (User Session Timeout: Failed Authentication Users)] 設定、または [ユーザセッションのタイムアウト：ゲストユーザ (User Session Timeout: Guest Users)] 設定で指定されているユーザセッションを終了した。



(注) ISEが設定されている場合は、ユーザテーブルにホストデータが表示されることがあります。ISEによるホスト検出は完全にはサポートされていないため、ISEが報告したホストデータを使用してユーザ制御を実行することはできません。

システムによって検出されたユーザログインのタイプに応じて、新しいユーザのどの情報が保存されるかが決まります。

ID ソース	ログインタイプ	格納されるユーザ データ
ISE	Active Directory LDAP RADIUS RSA	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザ名 • 現行の IP アドレス • セキュリティ グループ タグ (SGT) • エンドポイントのプロファイル/デバイス タイプ • エンドポイントの場所/場所 IP • タイプ (LDAP)
ユーザ エージェント	Active Directory	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザ名 • 現行の IP アドレス • タイプ (LDAP)

ID ソース	ログインタイプ	格納されるユーザデータ
キャプティブポータル	Active Directory LDAP	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ名 現行の IP アドレス タイプ (LDAP)
トラフィックベースの検出	LDAP AIM Oracle SIP HTTP FTP MDNS	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ名 現行の IP アドレス タイプ (AD)
	POP3 IMAP	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ名 現行の IP アドレス 電子メール アドレス タイプ (pop3 または imap)

ユーザを自動的にダウンロードするようにレلمを設定すると、Firepower Management Center は指定した間隔に基づいてサーバに対するクエリを実行します。システムが新しいユーザのログインを検出してから、Firepower Management Center データベースがユーザのメタデータを更新するまでに、5～10 分かかることがあります。Firepower Management Center は、ユーザごとに次の情報とメタデータを取得します。

- ユーザ名
- 姓と名
- 電子メール アドレス
- 部署
- 電話番号
- 現行の IP アドレス
- セキュリティ グループ タグ (SGT) (使用可能な場合)
- エンドポイントのプロファイル (使用可能な場合)
- エンドポイントの場所 (使用可能な場合)

Firepower Management Center がデータベースに格納できるユーザの数は、Firepower Management Center のモデルによって異なります。ホストに対して権限を持たないユーザがログインしていることが検出された場合、そのログインはユーザおよびホストの履歴に記録されます。権限のあるユーザがホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行ユーザとなることができます。ただし、ホストに対して権限を持つユーザのログインが検出された後は、権限を持つ別のユーザがログインした場合にのみ、現行ユーザが変わります。

AIM、Oracle、およびSIPのログインがトラフィックベースで検出された場合は、システムがLDAPサーバから取得したどのユーザメタデータにも関連付けられないため、これらのログインにより重複したユーザレコードが作成されることに注意してください。これらのプロトコルから重複したユーザレコードを取得することに起因するユーザカウントの過度な使用を回避するには、これらのプロトコルを無視するようにトラフィックベースの検出を設定します。

データベースからユーザを検索、表示、削除することができます。また、データベースからすべてのユーザを消去することもできます。

一般的なユーザ関連のイベントトラブルシューティングについては、[レルムとユーザのダウンロードのトラブルシューティング](#)を参照してください。

ユーザデータの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

ユーザのテーブルを表示して、検索する情報に応じてイベントビューを操作することができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザにアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。事前定義のワークフローを使用することができますが、これには、検出されたすべてのユーザが記載されているユーザのテーブルビューが含まれています。このワークフローは、ユーザの詳細ページで終了します。ユーザの詳細ページは、制約を満たす各ユーザについての情報を提供します。

手順

ステップ 1 次のように、ユーザデータにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザ (Users)] を選択します。

- ユーザのテーブルビューが含まれないカスタム ワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックして [ユーザ (Users)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックしてカスタム ワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します (ディスカバリおよびアイデンティティ ワークフローの使用, (7 ページ) を参照)。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます (ユーザ関連フィールド, (54 ページ) を参照)。

ユーザ アクティビティ データ

Firepower システムでは、ネットワーク上のユーザ アクティビティの詳細を伝達するイベントを生成します。システムがユーザ アクティビティを検出すると、そのユーザ アクティビティ データはデータベースに記録されます。ユーザ アクティビティは、表示、検索、および削除することも、すべてのユーザ アクティビティをデータベースから消去することもできます。

あるユーザがネットワーク上で初めて確認されると、システムはそのユーザ アクティビティ イベントをログに記録します。そのユーザがその後確認された場合、新しいユーザ アクティビティ イベントはログに記録されません。ただし、そのユーザの IP アドレスが変わった場合、システムは新しいユーザ アクティビティ イベントをログに記録します。

Firepower システムでは、ユーザ アクティビティと他のタイプのイベントとの関連付けも行います。たとえば、侵入イベントは、そのイベントの発生時に送信元ホストと宛先ホストにログインしていたユーザを通知することができます。この関連付けにより、攻撃の対象になったホストにログインしていたユーザ、または内部攻撃やポートスキャンを開始したユーザがわかります。

ユーザ アクティビティは、関連ルールで使用することもできます。関連ルールは、ユーザ アクティビティのタイプだけでなく、指定した他の条件に基づいて作成することができます。関連ルールが関連ポリシーで使用される場合、ネットワーク トラフィックが条件を満たしたときは、関連ルールが修復およびアラートの応答を起動します。



- (注) ISE を設定していた場合、ホスト データがユーザ テーブルに表示されることがあります。ISE によるホスト検出は完全にはサポートされていないため、ISE が報告したホストデータを使用してユーザ制御を実行することはできません。

次に、4 つのタイプのユーザ アクティビティ データについて説明します。

新しいユーザのアイデンティティ (New User Identity)

このタイプのイベントは、システムがデータベースに存在しない不明なユーザによるログインを検出したときに生成されます。

あるユーザがネットワーク上で初めて確認されると、システムはそのユーザアクティビティ イベントをログに記録します。そのユーザがその後に確認された場合、新しいユーザアクティビティ イベントはログに記録されません。ただし、そのユーザの IP アドレスが変わった場合、システムは新しいユーザアクティビティ イベントをログに記録します。

ユーザ ログイン (User Login)

このタイプのイベントは、次のことが発生した後に生成されます。

- ユーザ エージェントまたは ISE が正常なユーザ ログインを報告した。
- キャプティブ ポータルのユーザ認証の実行が成功または失敗した。
- トラフィック ベースの検出がユーザ ログインの成功または失敗を検出した。



(注)

トラフィック ベースの検出で検出された SMTP ログインは、一致する電子メールアドレスを持つユーザがデータベースにすでに存在する場合を除いて記録されません。

権限のないユーザがあるホストにログインすると、そのログインはユーザとホストの履歴に記録されます。権限のあるユーザがそのホストに関連付けられていない場合、権限のないユーザがそのホストの現行（現在の）ユーザとなることが可能です。ただし、権限のあるユーザがそのホストにログインした後は、別の権限のあるユーザによるログインだけが現行ユーザを変更します。

キャプティブ ポータルまたはトラフィック ベースの検出を使用する場合、失敗したユーザ ログインと失敗したユーザ認証データについて、次の点に注意してください。

- トラフィック ベースの検出 (LDAP、IMAP、FTP、および POP3 トラフィック) から報告された失敗したログインは、ユーザアクティビティのテーブルビューに表示されますが、ユーザのテーブルビューには表示されません。既知のユーザがログインに失敗した場合、システムではそのユーザをそのユーザ名で識別します。不明なユーザがログインに失敗した場合、システムではそのユーザ名として [失敗した認証 (Failed Authentication)] を使用します。
- キャプティブ ポータルから報告された失敗した認証は、ユーザアクティビティのテーブルビューとユーザのテーブルビューの両方に表示されます。既知のユーザが認証に失敗した場合、システムではそのユーザをそのユーザ名で識別します。不明なユーザが認証に失敗した場合、システムではそのユーザをそのユーザが入力したユーザ名で識別します。

ユーザのアイデンティティの削除 (Delete User Identity)

このタイプのイベントは、データベースからユーザを手動で削除したときに生成されます。

ドロップ（廃棄）されたユーザのアイデンティティ：ユーザ制限に到達（User Identity Dropped: User Limit Reached）

このタイプのイベントは、システムがデータベースに存在しないユーザを検出したものの、Firepower Management Center のモデルで決定されているデータベースの最大ユーザ数に達したためにユーザを追加できなかったときに生成されます。

ユーザ制限に達すると、ほとんどの場合、データベースへの新しいユーザの追加が停止されます。新しいユーザを追加するには、古いユーザまたは非アクティブなユーザをデータベースから手動で削除するか、データベースからすべてのユーザを消去する必要があります。

ただし、システムでは権限のあるユーザが優先されます。すでに制限に達しており、これまでに検出されていない権限のあるユーザのログインが検出された場合、システムは長期間非アクティブな状態が続いている権限のないユーザを削除して、権限のある新しいユーザに置き換えます。

一般的なユーザ関連のイベント トラブルシューティングについては、[レムとユーザのダウンロードのトラブルシューティング](#) を参照してください。

関連トピック

[ユーザ アクティビティ データベース](#)

ユーザ アクティビティ データの表示

スマートライセンス	従来ライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

ユーザアクティビティのテーブルを表示して、検索する情報に応じてイベントビューを操作することができます。ユーザアクティビティにアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。事前定義のワークフローを使用することができます。このワークフローにはユーザアクティビティのテーブルビューが含まれており、制約を満たすすべてのユーザの詳細が含まれている、ユーザの詳細ページで終了します。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタムワークフローを作成することもできます。

手順

ステップ 1 次のように、ユーザアクティビティ データにアクセスします。

- 事前定義されたワークフローを使用する場合、[分析 (Analysis)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザアクティビティ (User Activity)] を選択します。

- ユーザアクティビティのテーブルビューが含まれないカスタムワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))]をクリックして[ユーザアクティビティ (User Activity)]を選択します。

ヒント イベントが表示されない場合は、時間範囲の調整が必要な可能性があります (時間枠の変更を参照)。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))]をクリックしてカスタムワークフローを含む別のワークフローを使用します。
- 基本的なワークフロー操作を実行します (ディスカバリおよびアイデンティティワークフローの使用, (7 ページ) を参照)。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べます (ユーザ関連フィールド, (54 ページ) を参照)。

ユーザ プロファイルとホスト履歴

特定のユーザの詳細については、[ユーザ (User)]ポップアップウィンドウを表示して確認することができます。表示されるページ (このマニュアルでは「ユーザプロフィール」と呼んでいます) には、Web インターフェイスで「ユーザのアイデンティティ (User Identity) 」というタイトルが付いています。

このウィンドウは、次のビューから表示できます。

- ユーザデータを他の種類のイベントに関連付けるすべてのイベントビュー
- ユーザのテーブルビュー

ユーザ情報は、ユーザワークフローの最終ページにも表示されます。

表示されるユーザデータは、ユーザのテーブルビューで表示されるものと同じです。

[侵害の兆候 (Indications of Compromise)] セクション

このセクションについては、次のセクションを参照してください。

- 侵害の兆候
- 侵害の兆候データ フィールド, (32 ページ)
- 単一ホストにおける侵害の兆候のルール状態の編集, (33 ページ)
- 侵害の兆候タグの解決, (34 ページ)
- 侵害の兆候のタグのソース イベントの表示, (33 ページ)

[ホストの履歴 (Host History)] セクション

ホストの履歴には、過去 24 時間のユーザ アクティビティがグラフィック表示されます。ユーザがログインおよびログオフしたホストの IP アドレスのリストには、ログインとログアウトの概算時間が棒グラフで示されます。一般的なユーザは、1 日の間に複数のホストに対してログオンおよびログオフする可能性があります。たとえば、メールサーバに対する定期的な自動ログインは複数回の短時間のセッションとして示されますが、（勤務時間中などの）長時間のログインは、長時間のセッションとして示されます。

トラフィック ベースの検出またはキャプティブ ポータルを使用して失敗したログインをキャプチャした場合、ホストの履歴にはユーザがログインに失敗したホストも含まれます。

ホストの履歴を生成するために使用されるデータは、ユーザの履歴データベースに格納されます。このデータベースには、デフォルトで 1000 万のユーザ ログイン イベントが格納されます。ホストの履歴に特定のユーザに関するデータが表示されない場合、そのユーザが非アクティブであるか、またはデータベースの制限を増やさなければならないことがあります。

関連トピック


[ユーザ データのフィールド](#)

ユーザの詳細およびホスト履歴の表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

手順

次の 2 つの対処法があります。

- ユーザをリストする任意のイベントビューで、ユーザ ID の横に表示されるユーザアイコン () をクリックします。
- いずれかのユーザ ワークフローで、[ユーザ (Users)] の最終ページをクリックします。